取扱説明書
（メルセデス・ベンツ編）

もくじ

ご使用になる前に 2

はじめに 3

安全にご利用になるために 4

対応システムと診断機能 6

対応車種一覧 11

診断コネクタ取り付け位置 13

診断の準備 15

車両と接続します 16

電源のON/OFF 20

車種、システムを選択します 22

診断機能 27

自己診断機能 28

データ表示機能 32

保存データ表示機能 50

アクティブテスト機能 57

サービスリセット機能 61

SBC(ｾﾝｿﾄﾛﾆｯｸﾌﾞﾚｰｷｺﾝﾄﾛｰﾙ)設定機能 80

作業サポート機能 90

識別情報表示機能 96

ご使用になる前に

はじめに……P3
安全にご利用になるために ……P4
対応システムと機能……P6
対応車種一覧……P11
診断コネクタ取り付け位置……P13

はじめに

ご使用になる前に

本取扱説明書では、メルセデス・ベンツ車の診断方法に関してご説明させていただきます。ご使用の前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しく安全にお使いください。

株式会社インターサポート

安全にご利用になるために

ご使用になる前に

■ 本製品を安全にお使いいただくために、お使いになる前に、必ず本取扱説明書ならびに添付のその他の取扱説明書を必ずお読みください。

■ 本取扱説明書および添付のその他の取扱説明書では、人に対する危害や財産への損傷を未然に防止するために、危険を伴う操作、お取扱について、次の記号で警告または、注意しています。内容をよくご理解の上で本文をお読みください。

警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が負傷を負う可能性、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本製品を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

以下に述べられている警告や他の案内を無視した事が原因となる製品の損害や、被害などに関しては、当社は一切責任を負いません。

⚠ 警告

- 走行状態でご使用になる場合には、必ず運転者、操作者の2人でご使用ください。操作に気を取られて事故につながる恐れがあります。
- アクティブテストはメルセデス・ベンツのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。
- アクティブテストは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）および、車両停止状態（パーキングブレーキをかけて、輪留めをする）で実行してください。

対応システムと診断機能

ご使用になる前に

対応システム

エンジン	CDI
	CDI1
	CDI1(コモンレール)
	CDI2
	CDI3
	CDI3(コモンレール)
	CDI4
	CDI4(コモンレール)
	CDI6
	CDIA
	CDID
	CDI-VI
	CR(コモンレール)
	ECM(エンジンコントロールモジュール)
	ERE・EVE・ASF(ディーゼルエンジン)
	HFM・ME2(ガソリンエンジン)
	IFI・DFI
	ISC(アイドルスピードコントロール)
	ME 2.8(モータエレクトロニクス)
	ME 9.7 AMG(モータエレクトロニクス)
	ME 9.7(モータエレクトロニクス)
	ME1LE(ガソリンエンジン)
	ME1RE(ガソリンエンジン)
	ME-SFI AMG(モータエレクトロニクス)
	ME-SFI(モータエレクトロニクス)
	PMS・HFM・ME2(ガソリンエンジン)
	エンジンコントロールユニット

オートマチック トランスアクスル	ACS(オートクラッチシステム)
	AGN(オートトランスミッション)
	EGS(エレクトロニックトランスミッションコントロール)
	EGS・EAG(エレクトロニクスギアシステム)
	ESM(エレクトロニクスセレクトモジュール)
	ETC(エレクトロニクストランスミッション)
	EWM(エレクトロニックセレクタレバーモジュール)
	FF 駆動 CVT
	FTC(フロントトランスミッション)
	GRM(ギア認識モジュール)
	HAQ(リアディファレンシャルロック)
	ISM(インテリジェントサーボモジュール)
	SSG(スプリンターシフトトランスミッション)
	VG・TC(トランスファケース)
シャーシ	ABC(アクティブボディコントロール)
	ABR(アダプティブブレーキ)
	ABS(アンチロックブレーキ)
	ABS・ASR・ETS
	BAS(ブレーキアシスト)
	DTR(ディストロニック)
	ENR(エレクトロニックレベルコントロール)
	ES(エレクトロニックパワーステアリング)
	ESP(エレクトロニクススタビリティ)
	SBC(センソトロニックブレーキコントロール)
	TPC(タイヤプレッシャモニタ)
	VP(バキュームポンプブレーキ)
	サスペンション
	電動パーキングブレーキ

ボディ	AAM(オールアクティビティモジュール)
	AB(エアバッグ)
	ABW(ウインドウバッグ付きエアバッグ)
	AHE(トレーラ認識)
	BCM(バッテリコントロールモジュール)
	BNS(車両電源コントロールモジュール)
	CGW(セントラルゲートウェイ)
	COU[ZBE](セントラルオペレーティングユニット)
	DAS(ドライブオーソリゼーションシステム)
	EAM(拡張アクティビティモジュール)
	EIS(エレクトロニクスイグニッションスイッチ)
	EZS(エレクトロニックイグニッションスタータスイッチ)
	HBF(リヤオペレーティングフィールド)
	HLCM-L(左ヘッドランプコントロールモジュール)
	HLCM-R(右ヘッドランプコントロールモジュール)
	HRA(ヘッドランプレンジコントロール)
	HRA(ヘッドランプレンジコントロール)
	KG(キーレスゴー)
	KR(ワイパ)
	LCP(ロアコントロールパネル)
	MRM(ステアリングコラムチューブモジュール)
	OBF(アッパオペレーティングフィールド)
	OCP(オーバーヘッドコントロールパネル)
	PSE(ニューマチックシステム)
	PSE(ニューマチックシステム)
	RevETR-LF(プリテンショナ-フロント左)
	RevETR-RF(プリテンショナ-フロント右)
	RFL(ラジオフリークエンシールッキング・エレクトロリックセントラルルッキング)
	SAM(信号収集・作動モジュール)
	SAM-F(信号収集・作動モジュール-フロント)
	SAM-FL(信号収集・作動モジュール-フロント左)
	SAM-FR(信号収集・作動モジュール-フロント右)
	SAM-R(信号収集・作動モジュール-リア)
	SRS(エアバッグ)
	UCP(アッパコントロールパネル)
	WSP(スタータロックアウト)
	WSS(ウェイトセンシングシステム)
	XALWA-L(キセノンヘッドランプ-左)
	XALWA-R(キセノンヘッドランプ-右)
	システムダイアグノシス

シート・ドア	DCM1(運転席側ドア)
	DCM2(助手席側ドア)
	DCM-FL(FLドアコントロールパネル)
	DCM-FR(FRドアコントロールパネル)
	DSP(ダイナミックシート用ポンプ)
	ESA-FL(エレクトリックシート調整-フロント左シート)
	ESA-FL(エレクトリックシート調整-フロント左シート)
	ESA-FR(エレクトリックシート調整-フロント右シート)
	ESA-FR(エレクトリックシート調整-フロント右シート)
	HS(シートヒータ)
	TSG(運転席側フロントドアコントロールモジュール)
インフォメーション・コミュニケーション	AGW(オーディオゲートウェイ)
	ASSYST(アクティブサービスシステム)
	CDC(CD チェンジャ)
	IC(インストルメントクラスタ)
	ICM(コンビネーションメータ)
	KI(インストルメントクラスタ)
	KI・ICM・KIL(コンビネーションメータ)
	NSA(夜間視覚補助)
	PTS(パークトロニックシステム)
	PTS(パークトロニックシステム)
	RFK(バックアップカメラ)
	SCM[MRM](ステアリングコラムモジュール)
	SCM[MRM](ステアリングコラムモジュール)
	オーディオコマンドシステム
エアコン	HZR(オートマチックエアコンディショニング)
	AAC(オートエアコン)
	Rear AC(リヤエアコン)
	PTC(補足ヒータ)
	KLA(オートエアコン)
	AAC・TAC(オートエアコン)
	STH(ステーショナリヒータ)
	HSW(ヒーテッドステアリングホイール)
	C-AAC・AAC(オートエアコン)
	KBE-H(リヤエアコン操作ユニット)
	ZUH(補足ヒータ)
	KAL・TAU(オートエアコン)
	REAR AC(リヤエアコン)
	STH・ZUH(補足ヒータ)

対応機能

■自己診断

■データ表示

■アクティブテスト

■サービスリセット

■SBC(ｾﾝｿﾄﾛﾆｯｸﾌﾞﾚｰｷｺﾝﾄﾛｰﾙ)設定機能

■識別情報表示

※注意と補足※

・ 車両により対応するシステムは異なります。

又、システムにより対応する機能は異なります。

対応車種一覧

ご使用になる前に

車種名	車輌型式	対応年式	
		西暦	和暦
A-Class	W168	1997～2003	H09～H15
	W169	2004～2008	H16～H20
B-Class	W245	2004～2008	H16～H20
C-Class	W202	1994～2000	H06～H12
	W203	2001～2006	H13～H18
	W204	2007～2008	H19～H20
E-Class	W124	1986～1995	S61～H07
	W210	1996～2002	H08～H14
	W211	2003～2008	H15～H20
S-Class	W140	1991～1996	H03～H08
	W220	1999～2005	H11～H17
	W221	2006～2008	H18～H20
G-Class	W461	～2008	～H20
	W463	～2008	～H20
GL-Class	X164	2007～2008	H19～H20
M-Class	W163	1998～2005	H10～H17
	W164	2006～2008	H18～H20
R-Class	V251	2006～2008	H18～H20

車種名	車輌型式	対応年式	
		西暦	和暦
CL･CLS･CLK	C215	1993～2005	H05～H17
	C216	2006～2008	H18～H20
	W208	1998～2002	H10～H14
	W209	2003～2008	H15～H20
	W219	2004～2008	H16～H20
SL･SLK	R129	1989～2002	H00～H14
	R170	1996～2005	H08～H17
	R171	2006～2008	H18～H20
	R230	2003～2008	H15～H20
V-Class･ﾄﾗﾝｽﾎﾟｰﾀｰ	W638	1996～2004	H08～H16
	W639	2004～	H16～
	W90X	1996～2005	H08～H17
	W906	2006～	H18～
V-Class･ｽﾌﾟﾘﾝﾀｰ	W901～ W905	1996～2004	H08～H17

※注意と補足※

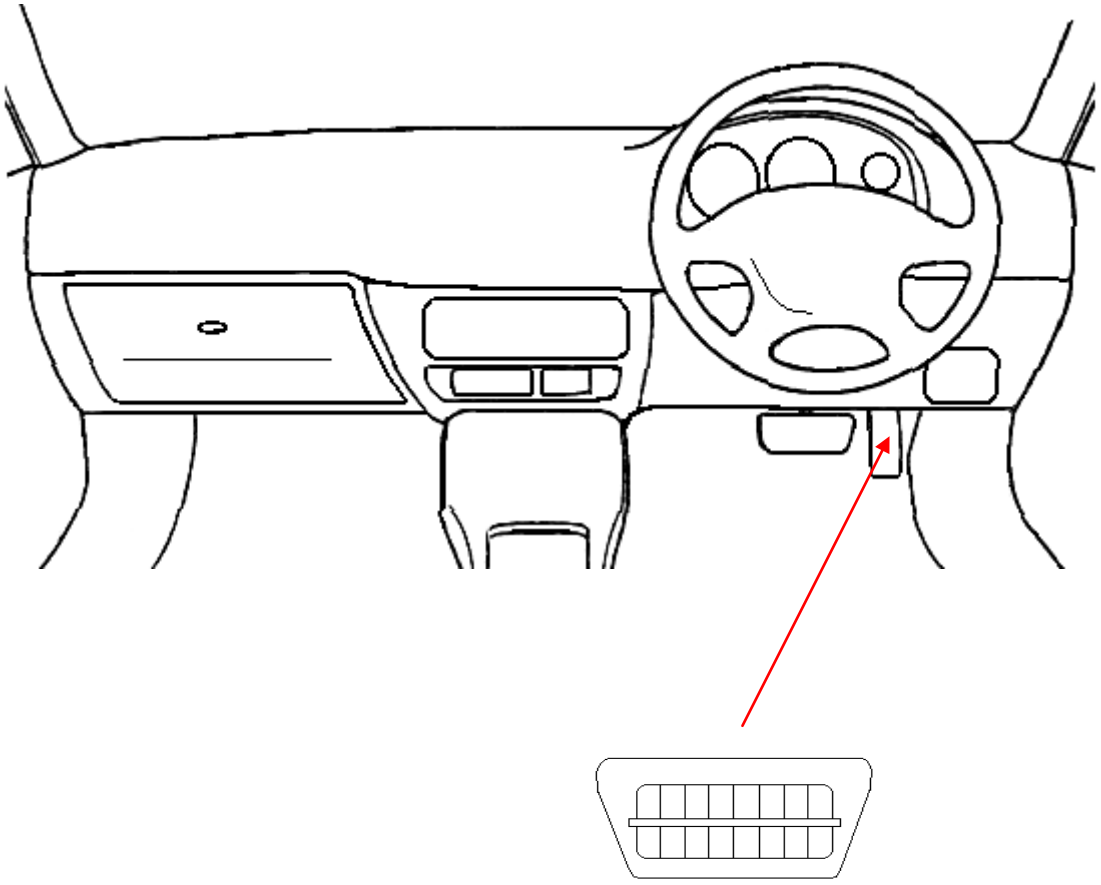
・　対応表はあくまで目安であり、対応表内の車両でも対応していない場合があります。

診断コネクタ取り付け位置

ご使用になる前に

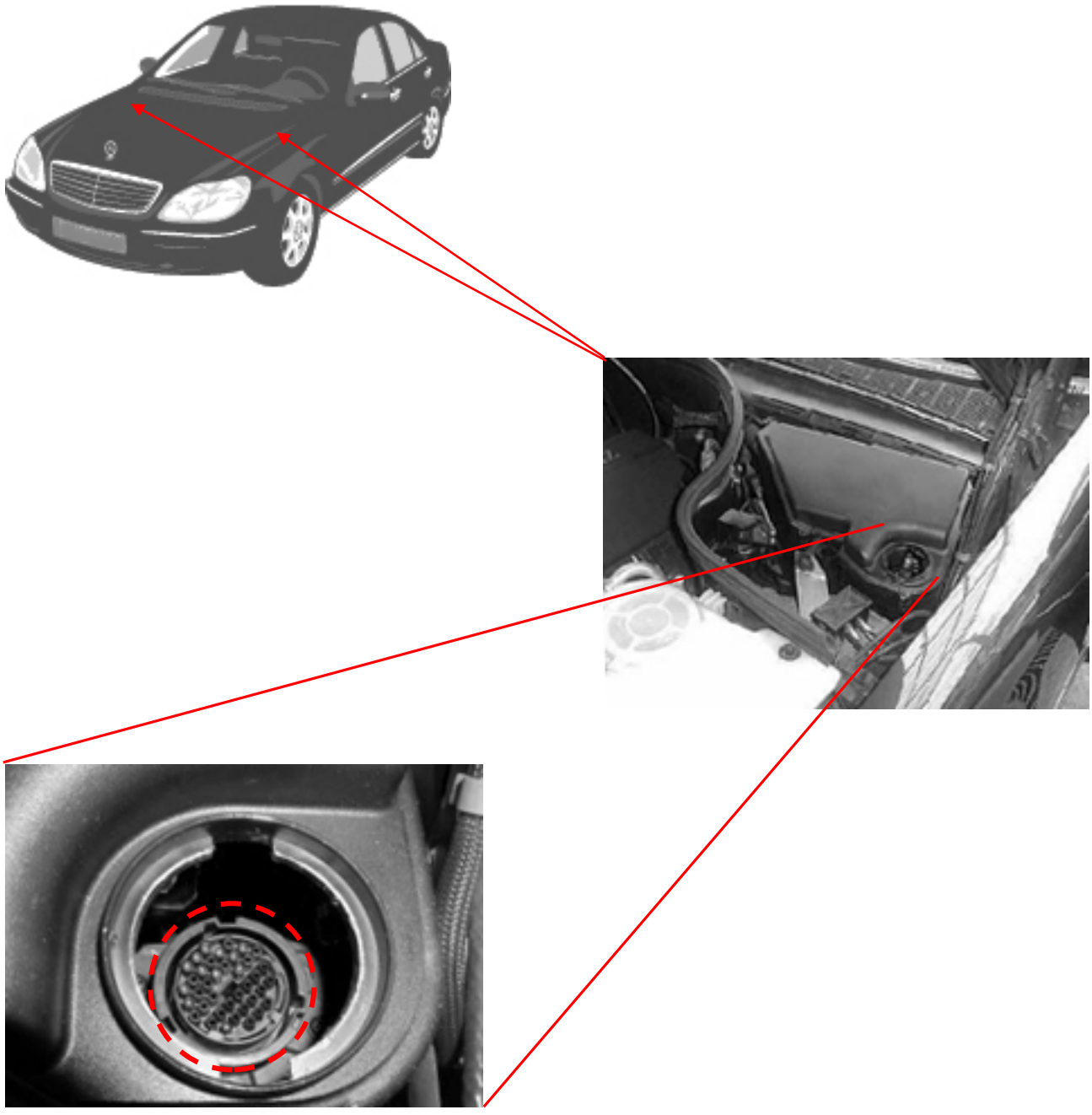
OBD16ピンコネクタ

OBD16ピンクコネクタは運転席インストルメントパネル右下のカバー内になります。



診断コネクタ（38ピン）

診断コネクタ（38ピン）はエンジンルーム内、左右奥になります。



診断コネクタ（14ピン）

診断コネクタ（14ピン）はエンジンルーム内にあります。

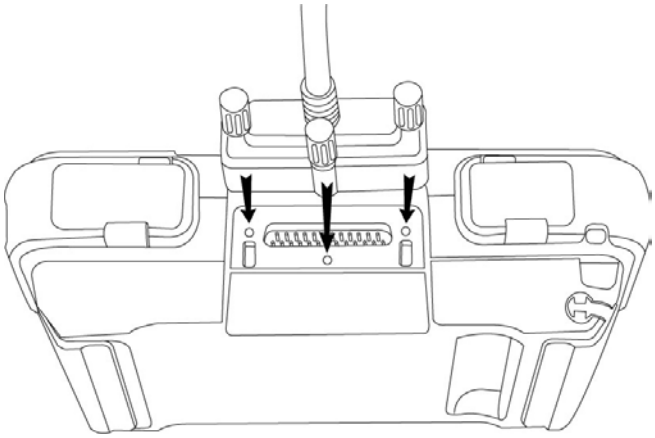
診断の準備

車両と接続します……P16
電源のON/OFF……P20
車種、システムを選択します……P22

車両と接続します

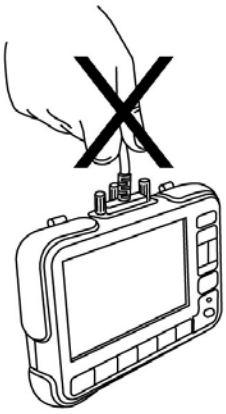
診断の準備

1）G-scanのDLCコネクタ部にDLCメインケーブルを接続し、3箇所のネジをしっかりと締め付けてください。



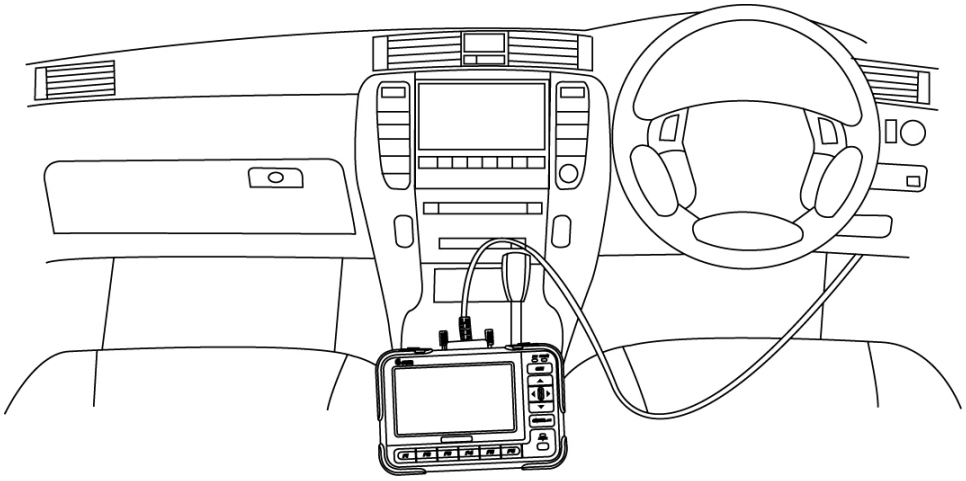
〈図：DLCメインケーブルの接続〉

警告



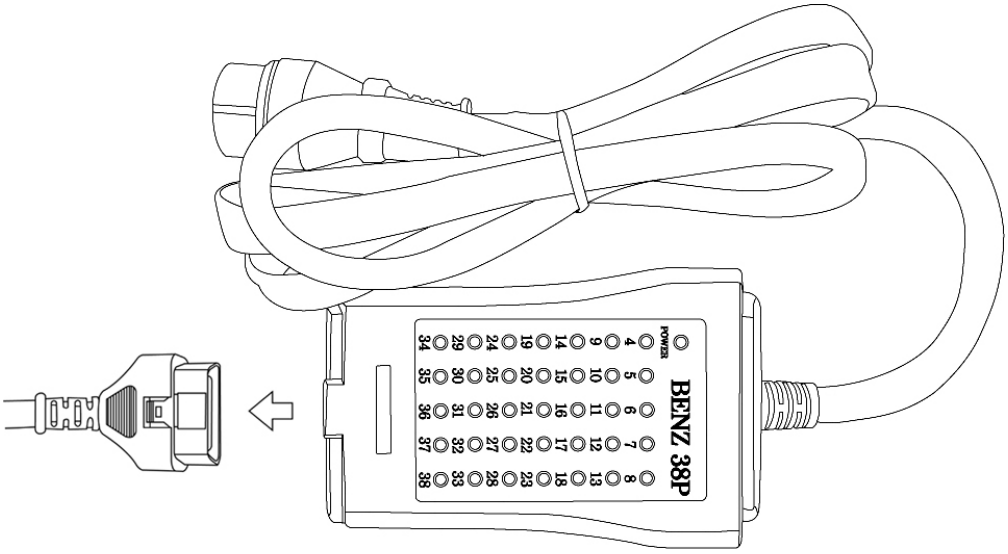
DLCメインケーブルがG-scanに接続された状態で、DLCメインケーブルのみを持たないでください。

2) G-scan本体に接続したDLCメインケーブルのもう一端を車両の診断コネクタに接続します。



〈図：車両との接続〉

3) 車両の診断コネクタに38ピン診断コネクタが装備されている場合は、付属のBENZ 38PをG-scan本体に接続したDLCメインケーブルのもう一端に接続して、車両の診断コネクタと接続してください。



〈図：BENZ 38Pとの接続〉

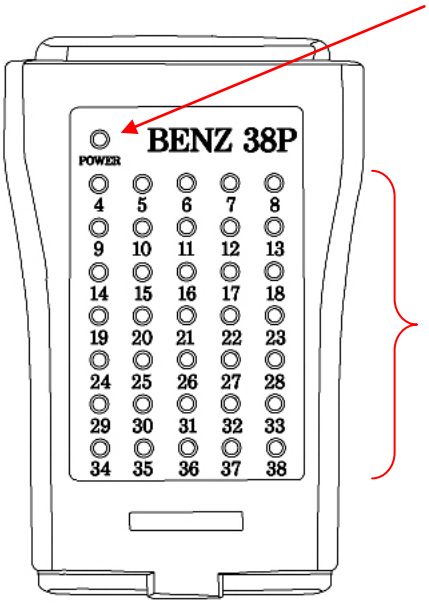
4）車両の診断コネクタに14ピン診断コネクタが装備されている場合は、付属の BENZ 14PをG-scan本体に接続したDLCメインケーブルのもう一端に接続して、車両の診断コネクタと接続してください。

〈図：BENZ 14Pコネクタ〉

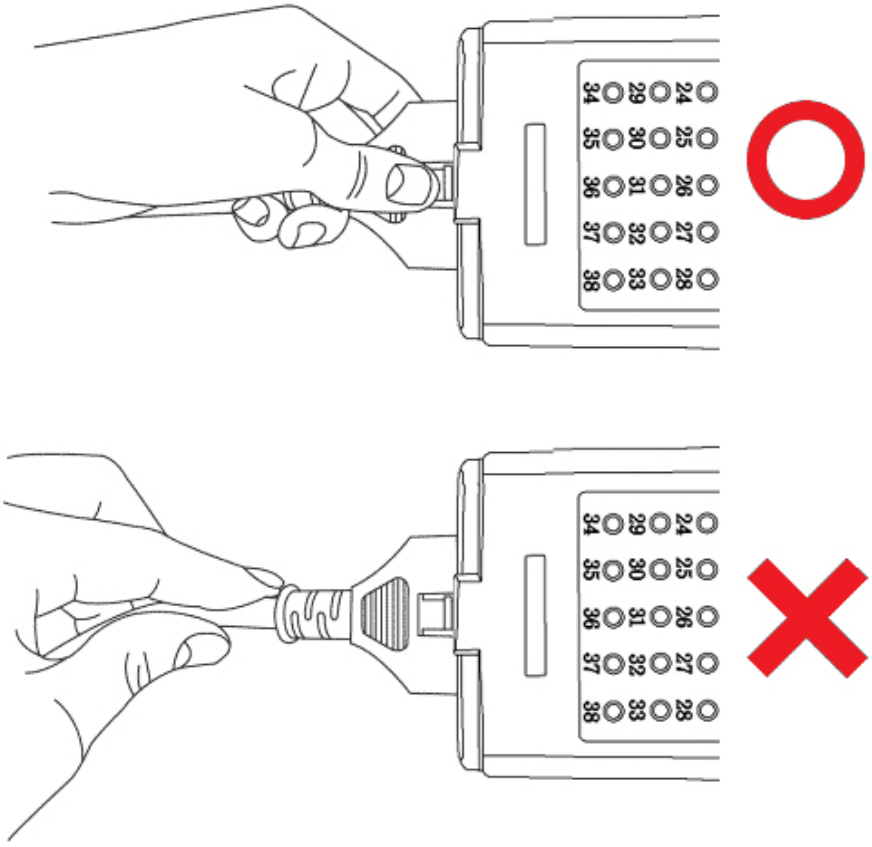
※注意と補足※

・ BENZ 38P、14Pはオプション別売です。

＜BENZ 38P＞



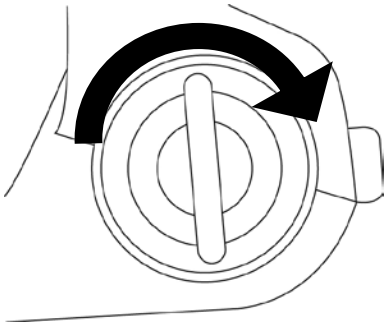
警告



BENZ 38PからDLCメインケーブルを取り外すとき、ワイヤを引っ張ったり、曲げたりしないでください。ケーブルやコネクタに損害を与える場合があります。必ずつまみを押しながら取り外してください。

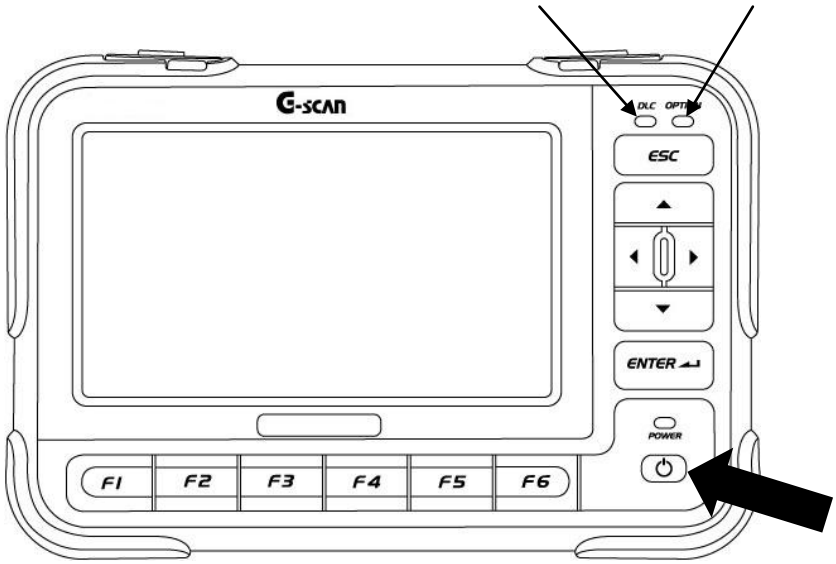
電源のON/OFF

1) 車両のIG SWをON、またはエンジンを始動します。



〈図:IG SW ONまたはエンジン始動〉

2) G-scan本体の電源ON/OFFボタンを約0.5秒長押ししてください。DLC LED、OPTION LEDがオレンジ色から緑色へと変わり、G-scanの電源がONします。

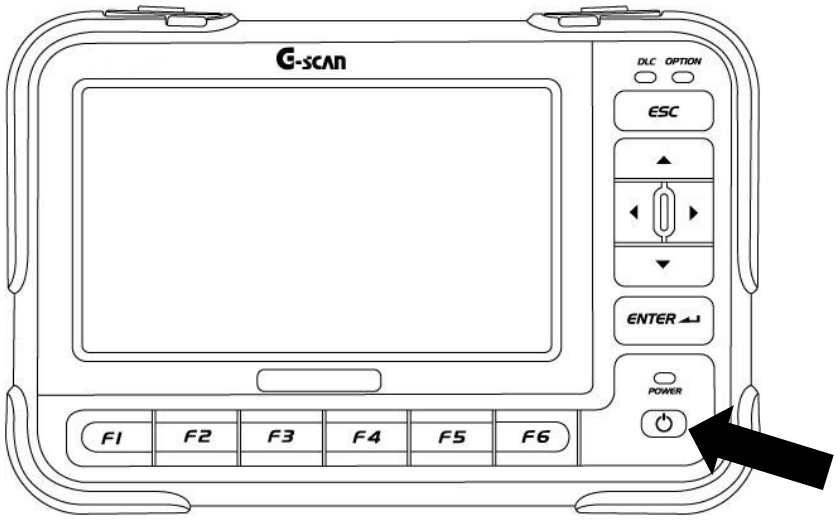


〈図:電源ON〉

3）G-scanが通常通り起動すると以下の画面が表示されます。

〈図：G-scanメイン画面〉

4）電源をOFFする場合は、上記のG-scanメイン画面を表示した状態で、電源ON/OFFボタンを約2.5秒長押ししてください。G-scanの電源がOFFします。



〈図：電源OFF〉

車種、システムを選択します

診断の準備

1）G-scanメイン画面において『車両診断』を選択して、　　ボタンを押してください。

〈図：車両診断を選択〉

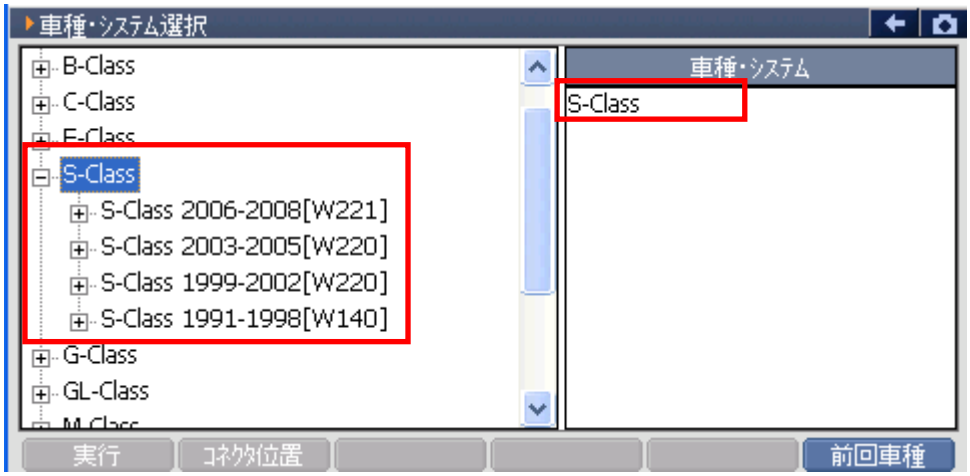
2）メーカ選択画面が表示されます。メルセデス・ベンツを選択して、　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押してください。

〈図：メーカ選択画面〉

3）車種・システム選択画面が表示されます。

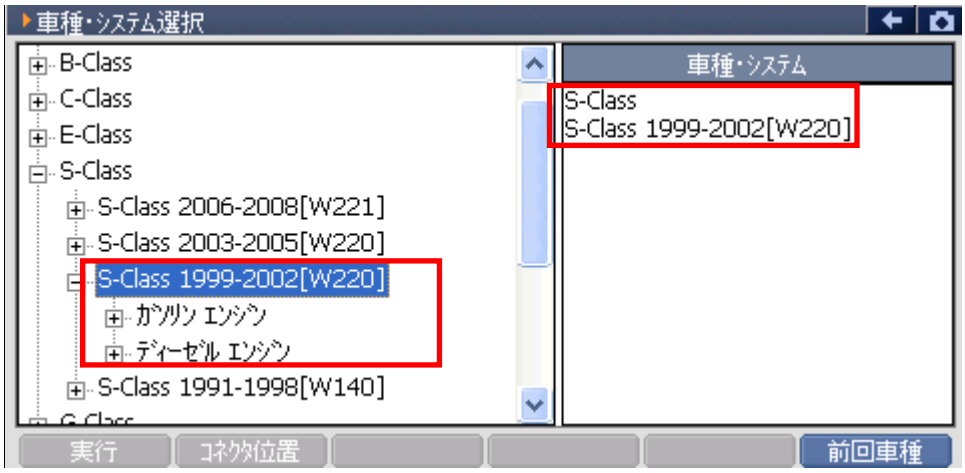
〈図：車種・システム選択画面〉

4）診断する車種クラスを選択して　　ボタンを押してください。車種クラスの下に年式とモデルが表示されます。

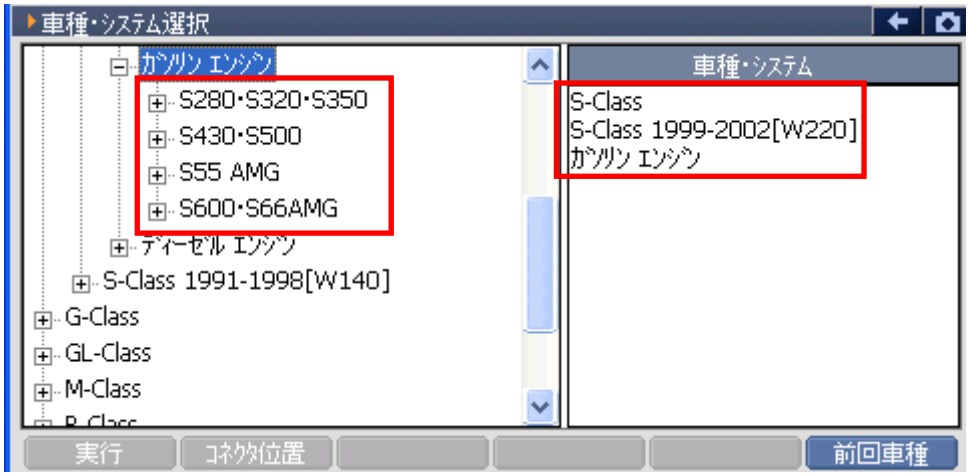


〈図：車種クラスを選択〉

5）同様に、診断する車両の年式[モデル]、グレードを選択してください。



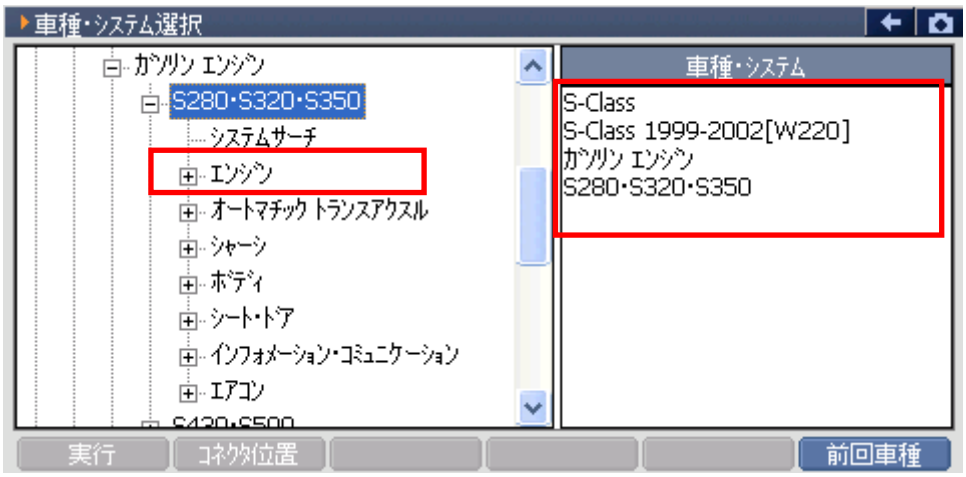
〈図：年式[モデル]を選択〉



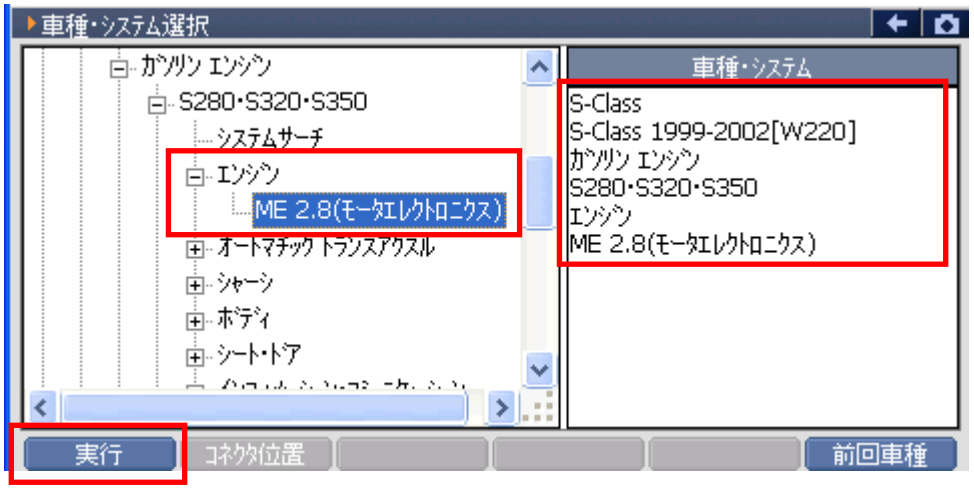
〈図：グレードを選択〉

6）グレードの選択が完了したら、システム、システムの詳細を選択し、 実行 ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

診断メニューが表示されます。



〈図：システムを選択〉

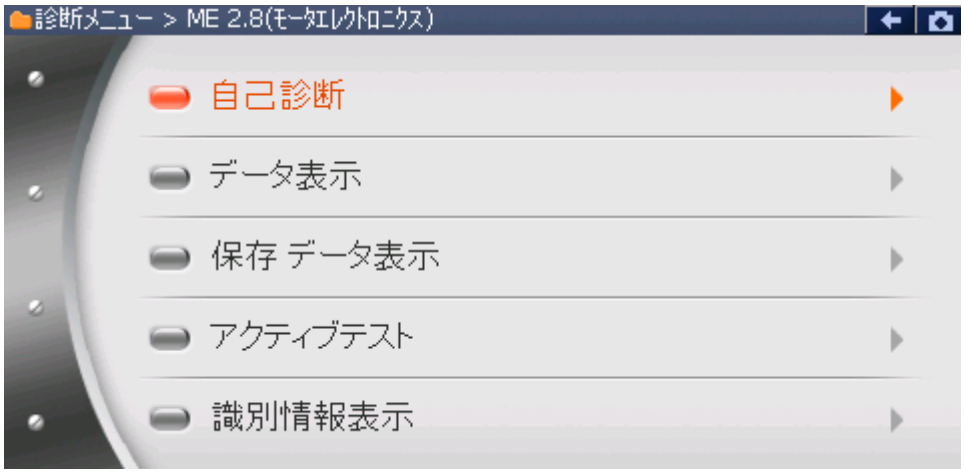


〈図：システムの詳細を選択〉

※注意と補足※

- 車種、システムの選択は正確に行ってください。正確に車種・システム選択が行われないと故障コード違いや、データ違い、通信異常の原因になります。
- 車種・システム選択画面で ボタンをタッチ、又は ボタンを押すと、前回選択した車種、システムが自動で選択されます。

7）車種・システムの選択が正しく行われると診断メニューが表示されます。



〈図：診断メニュー画面〉

※注意と補足※

・ 上記の診断メニューは S-Class→S-Class 1999-2002[W220]→ｶﾞｿﾘﾝ ｴﾝｼﾞﾝ →S280・S320・S350→エンジン→ME 2.8(ﾓｰﾀｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ) を選択した例です。

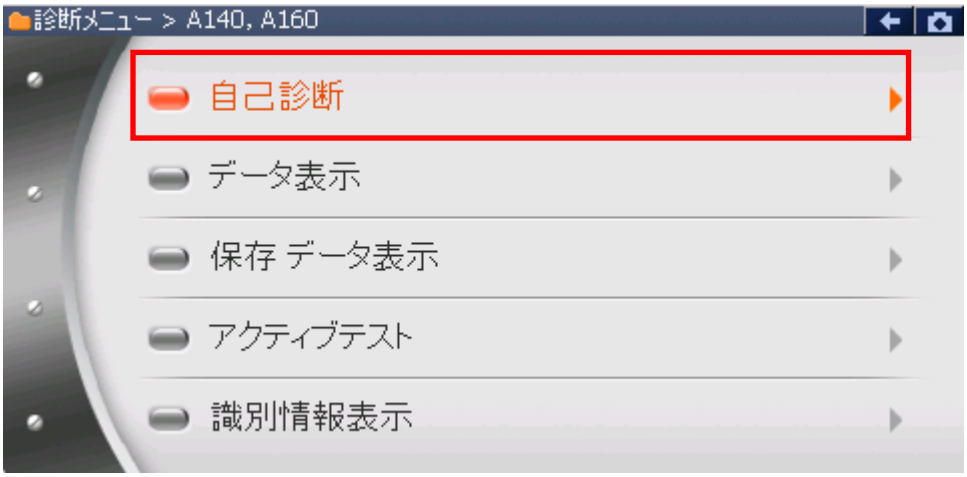
診断メニューに表示される診断機能は車種、システムによって異なります。

診断機能

自己診断機能.....P28
データ表示機能.....P32
保存データ表示機能.....P50
アクティブテスト機能.....P57
サービスリセット機能.....P61
SBC(ｾﾝｿﾄﾛﾆｯｸﾌﾞﾚｰｷｺﾝﾄﾛｰﾙ)設定機能.....P80
識別情報表示機能.....P96

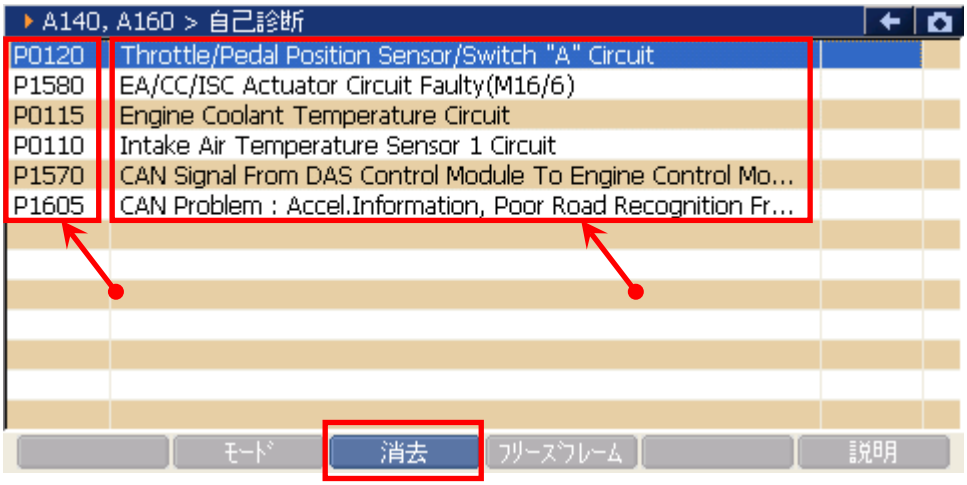
自己診断機能

1）診断メニューにおいて『自己診断』を選択して　　ボタンを押してください。



〈図：診断メニューにて自己診断を選択〉

2）自己診断画面が表示され、記憶された故障コードが表示されます。



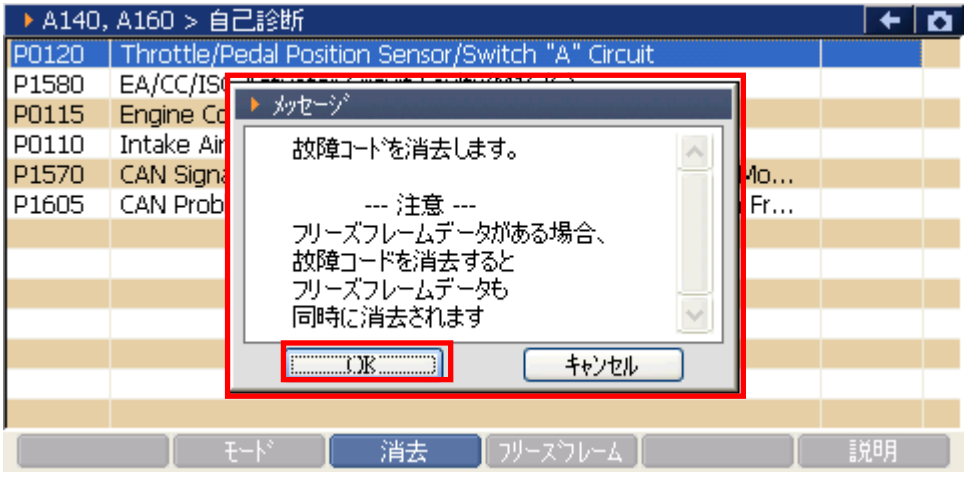
〈図：自己診断画面〉

故障コード ： メルセデス・ベンツ独自の故障コードNo.、又はSAEコード（例：P0135）が表示されます。

故障系統名 ： 故障系統名が表示されます。
故障内容の詳細に関しては、メルセデス・ベンツのサービスマニュアルをご参照ください。

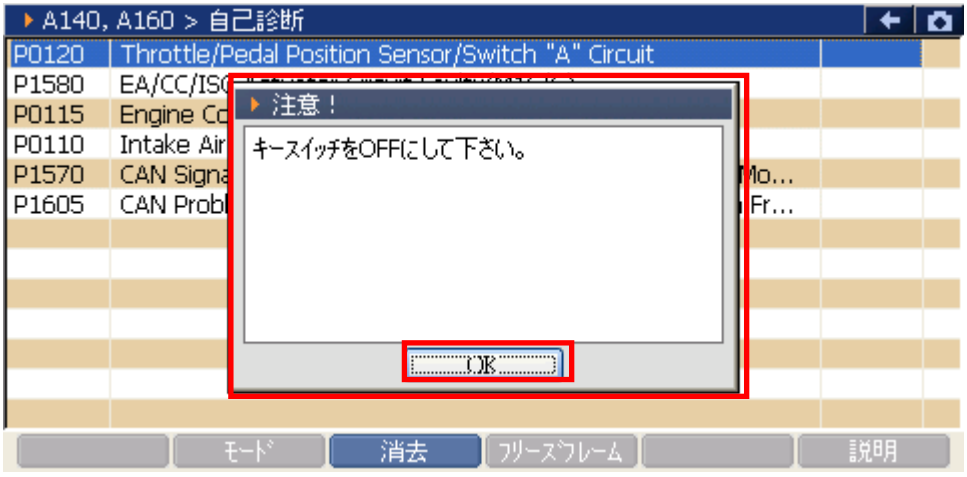
消去　自己診断記憶を消去します。【詳細は3）を参照】

3）　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押すと故障コードを消去します。
以下の画面が表示されますので、　　ボタンをタッチしてください。



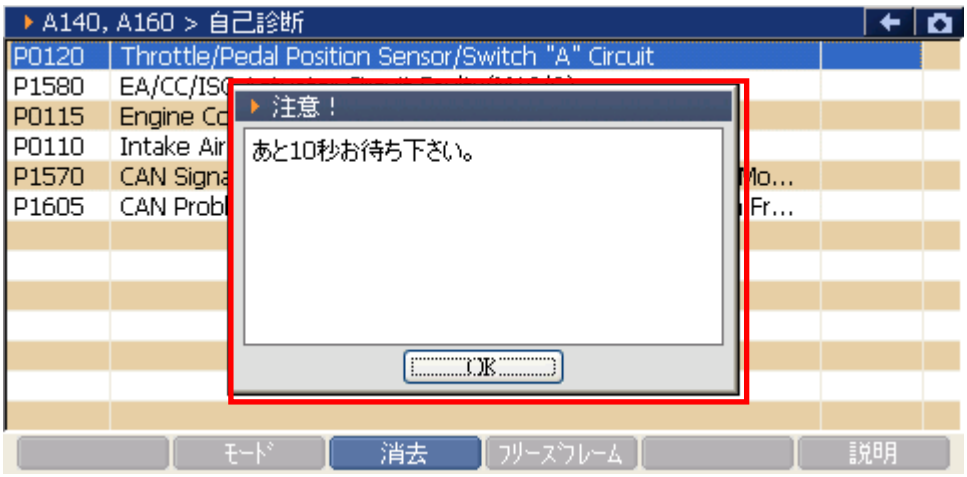
〈図：故障コードの消去〉

4）以下の画面が表示されます。IG SWをOFFにしてください。
IG SWをOFF後　　ボタンをタッチしてください。



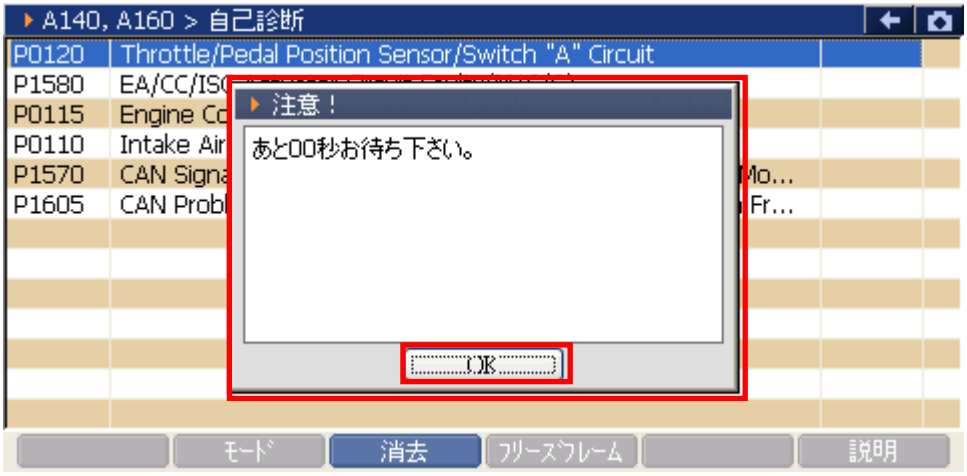
〈図：故障コードの消去 IG SW OFF〉

5）IG SWがOFFの状態のまま10秒間お待ちください。



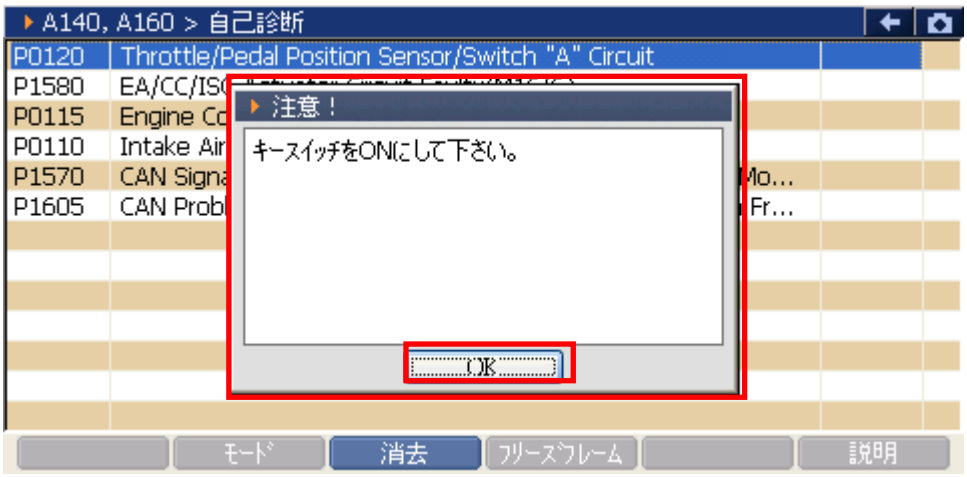
〈図：故障コードの消去　IG SW OFFを10秒間保持〉

6）10秒後に以下の画面が表示されます。　　ボタンをタッチしてください。

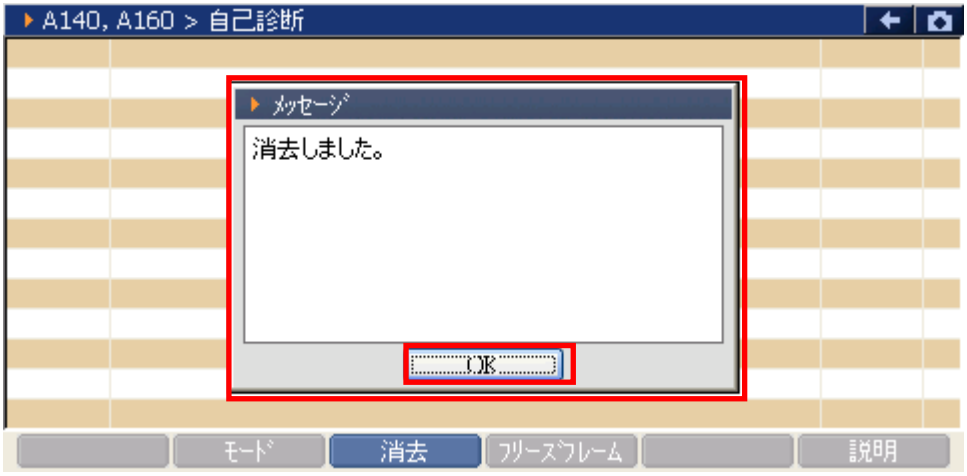


〈図：故障コードの消去　10秒後〉

7）IG SW ONして、　　ボタンをタッチしてください。故障コードが消去されます。



〈図：故障コードの消去 IG SW ON〉

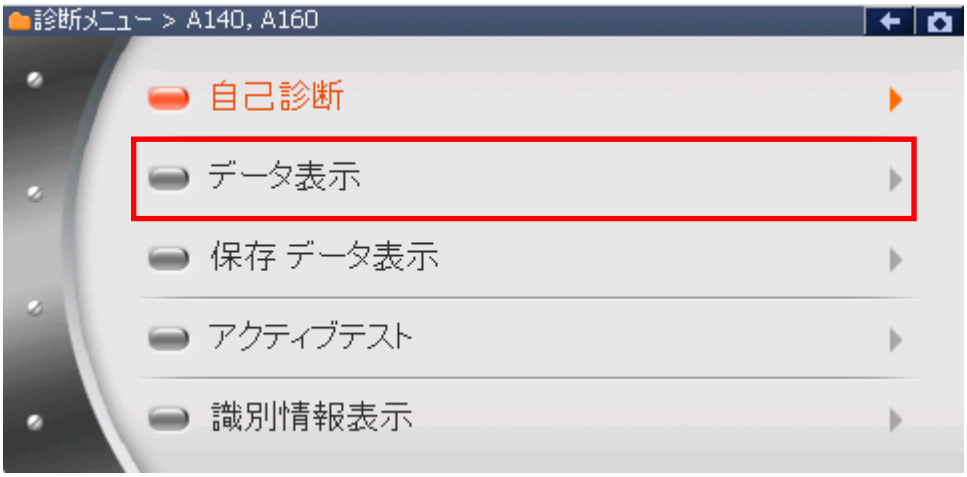


〈図：故障コードの消去完了〉

データ表示機能

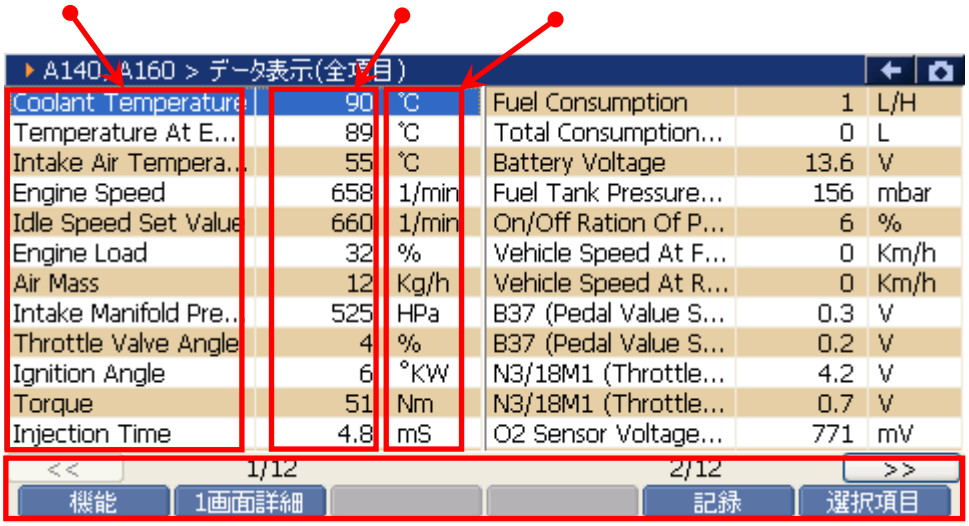
診断機能

1）診断メニューにおいて『データ表示』を選択して　　ボタンを押してください。



〈図：診断メニューにてデータ表示を選択〉

2）データ表示画面が表示され、リアルタイムなデータが数値で表示されます。

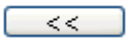


〈図：データ表示画面〉

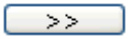
項目名 ： 項目名が表示されます。

現在値 ： 現在値が表示されます。

単位 ： 単位が表示されます。



前のページを表示します。



次のページを表示します。

最大最小値のリセットを行います。【詳細はP36を参照】

1画面表示に切替えます。【詳細はP34 3)を参照】

データを記録します。【詳細はP40を参照】

表示する項目を選択します。【詳細はP46を参照】

※注意と補足※

・ 表示される項目名は車種、システムによって異なります。

3)　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押すと2画面で表示されていたデータを1画面に表示することができます。

〈図:データ表示画面　1画面表示〉

項目名　:　項目名が表示されます。

現在値　:　現在値が表示されます。

単位　:　単位が表示されます。

最大値/最小値　:　最大値と最小値が表示されます。

機能　最大最小値のリセットを行います。【詳細はP36を参照】

2画面表示　2画面表示に切替えます。

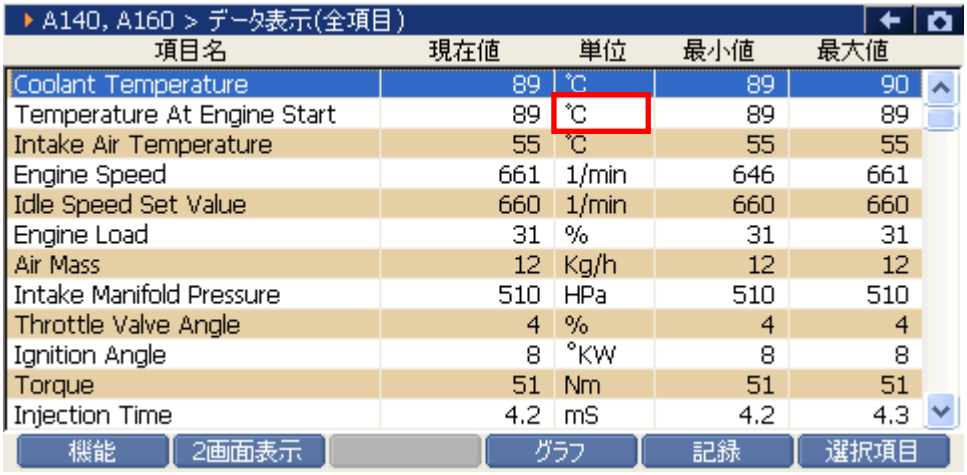
グラフ　数値で表示されているデータをグラフで表示します【詳細はP37を参照】

記録　データを記録します。【詳細はP40を参照】

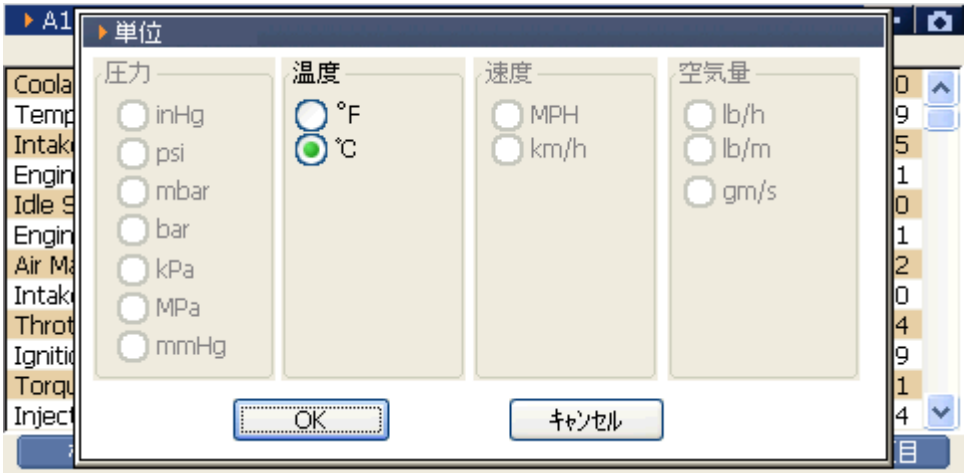
選択項目　表示する項目を選択します。【詳細はP46を参照】

※注意と補足※

・ 『圧力』、『速度』、『温度』、『空気量』に含まれる項目の場合、単位の部分をタッチすると以下の画面が表示され、単位を変更することができます。



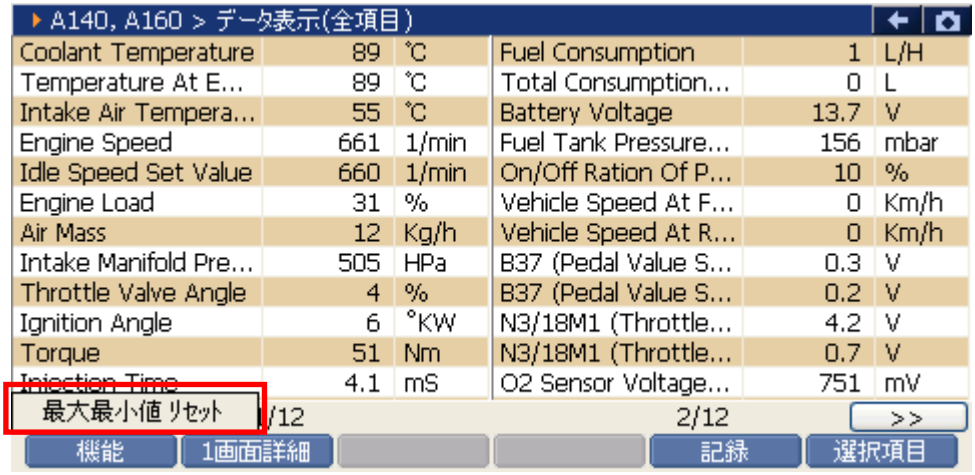
〈図:単位をタッチ〉



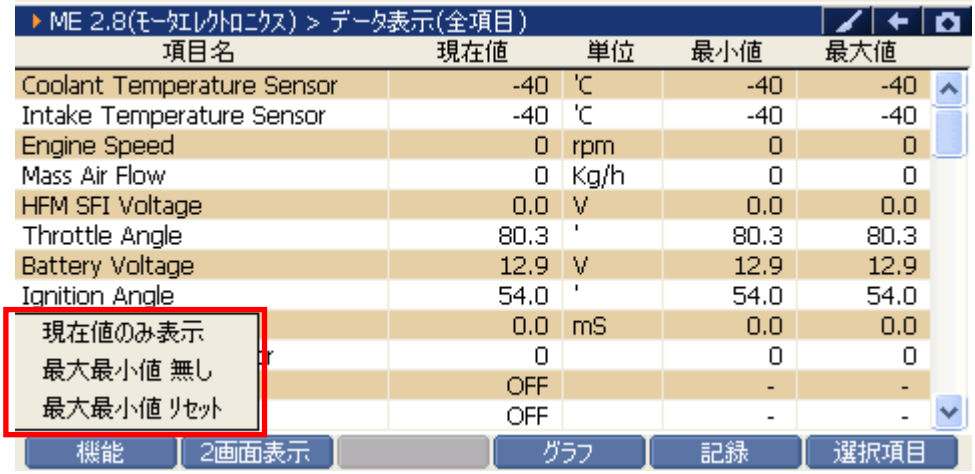
〈図:単位変更画面〉

■ ボタンの詳細

① ボタンをタッチ、又は ボタンを押すと以下の画面が表示されます。



〈図:2画面表示状態で機能ボタンをタッチ〉



〈図:1画面表示状態で機能ボタンをタッチ〉

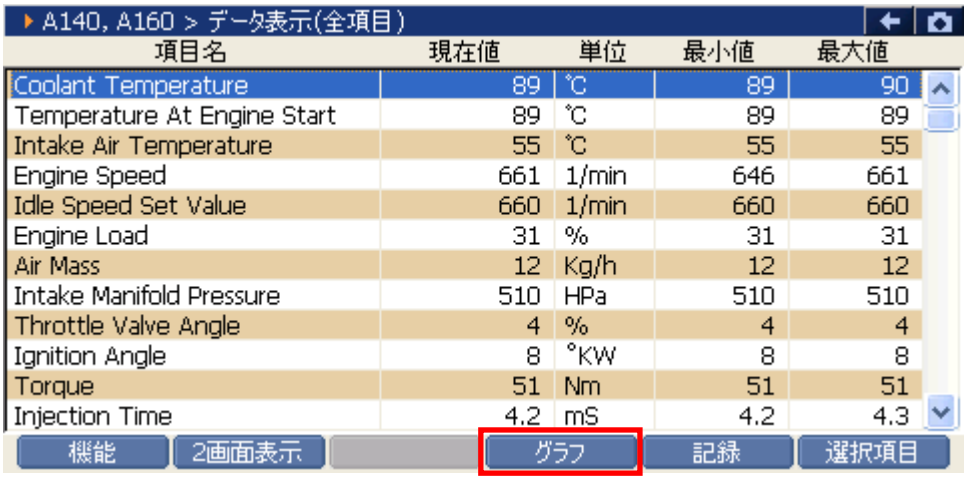
現在値のみ表示 ： 単位、最小値、最大値の列を非表示にします。
『現在値のみ表示』は1画面表示状態のみ表示されます。

最大最小値無し ： 最大値、最小値の列を非表示にします。
『最大最小値無し』は1画面表示状態のみ表示されます。

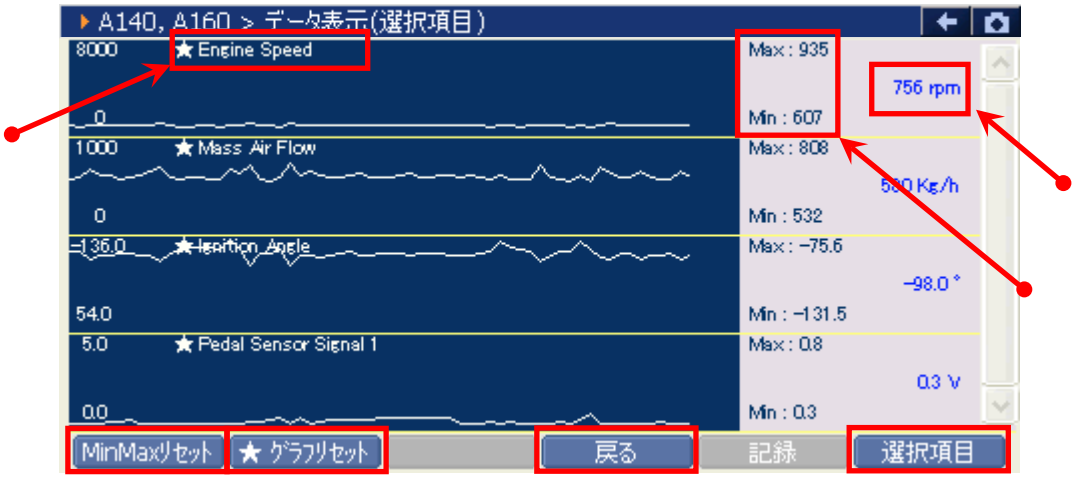
最大最小値リセット ： 最大値、最小値をリセットします。

■　　ボタンの詳細

① 1画面表示状態で画面下部の　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押すと数値で表示されていたデータがグラフで表示されます。



〈図:1画面表示状態〉



〈図:グラフ表示画面〉

項目名 ： 項目名が表示されます。

現在値 ： 現在値が表示されます。

Max/Min ： 最大値/最小値が表示されます。

最大値、最小値をリセットします。

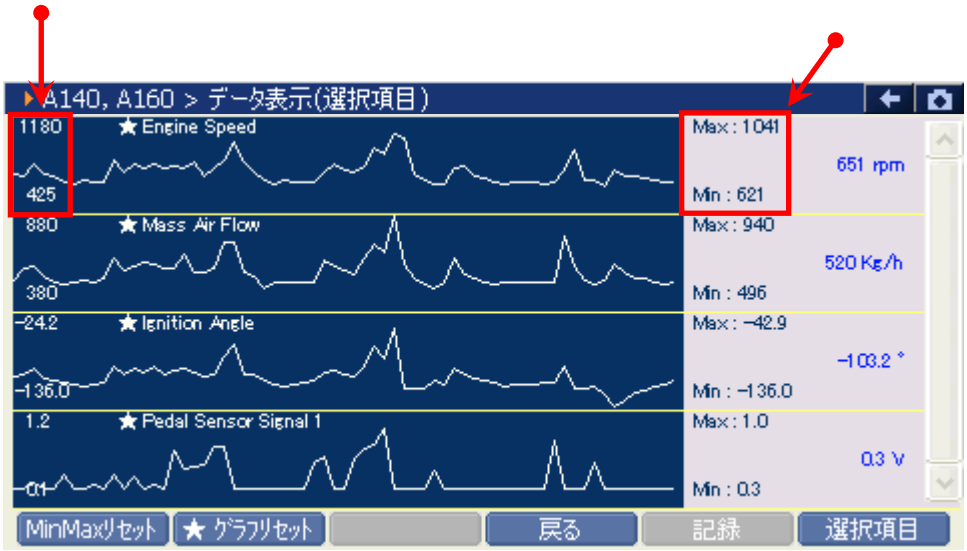
グラフの数値軸の幅を最大値/最小値に合わせて補正します。【詳細はP38を参照】

数値表示に戻ります。

表示する項目を選択します。【詳細はP46を参照】

② グラフ表示画面で画面下部の　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押すと、グラフの縦軸である数値軸の上下値の幅が、グラフリセットを実行した時点の最大値/最小値に合わせた上下値の幅に補正されます。

〈図：グラフリセット前〉



〈図：グラフリセット後〉

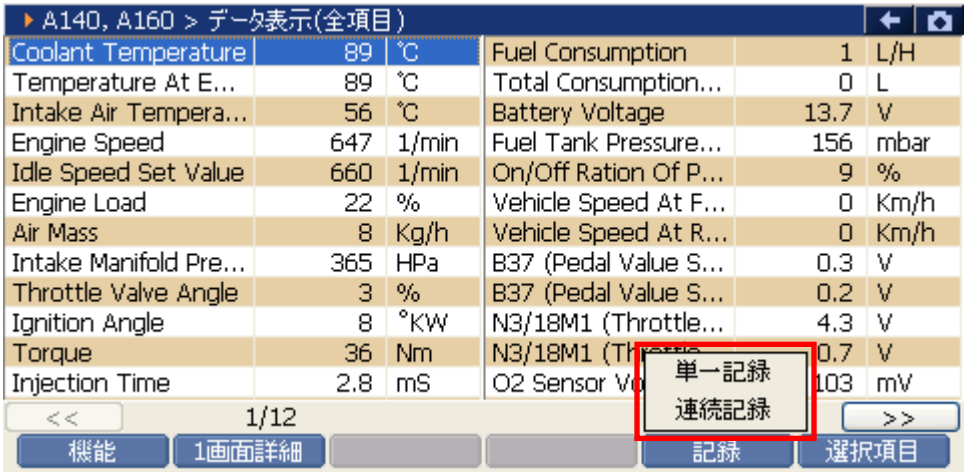
※注意と補足※

- グラフリセットは、画面に表示している項目にのみ実行されます。
- 項目名の左に☆印が付いている項目のみグラフリセットに対応しています。

  その他の項目は、グラフリセットを実行しても上下値の補正は行われません。

■ ボタンの詳細

① ボタンをタッチ、又は ボタンを押すと以下の画面が表示されます。



〈図:2画面表示状態で記録ボタンをタッチ〉

〈図:1画面表示状態で記録ボタンをタッチ〉

単一記録 ： 1サンプル分のデータを記録します。【詳細はP41 ②を参照】

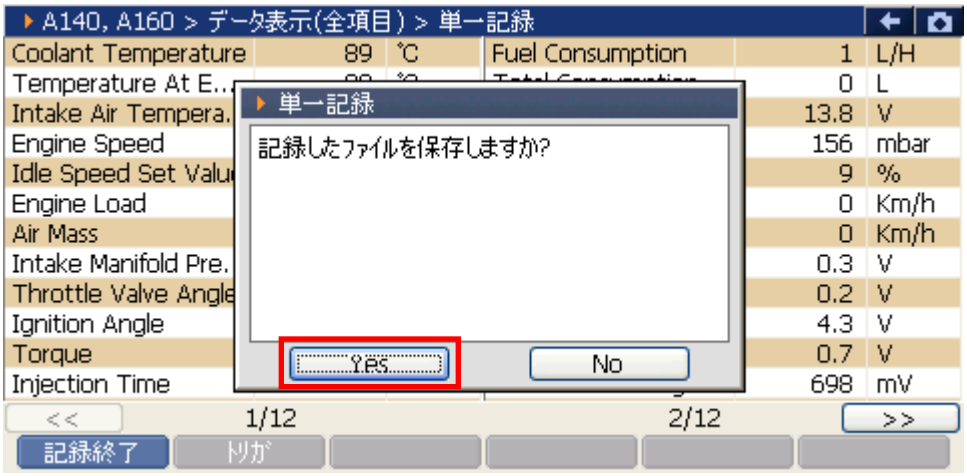
連続記録 ： 連続したサンプルのデータを記録します。【詳細はP44 ⑥を参照】
最大記録時間は60分です。

② 『単一記録』を選択すると、データの記録が開始されます。

『単一記録』では1サンプル分のデータを記録します。

〈図：単一記録で記録中〉

③ 記録が終了すると以下の画面が表示されます。　　を選択してファイルを保存してください。　　を選択した場合、記録したデータは失われ閲覧することはできません。

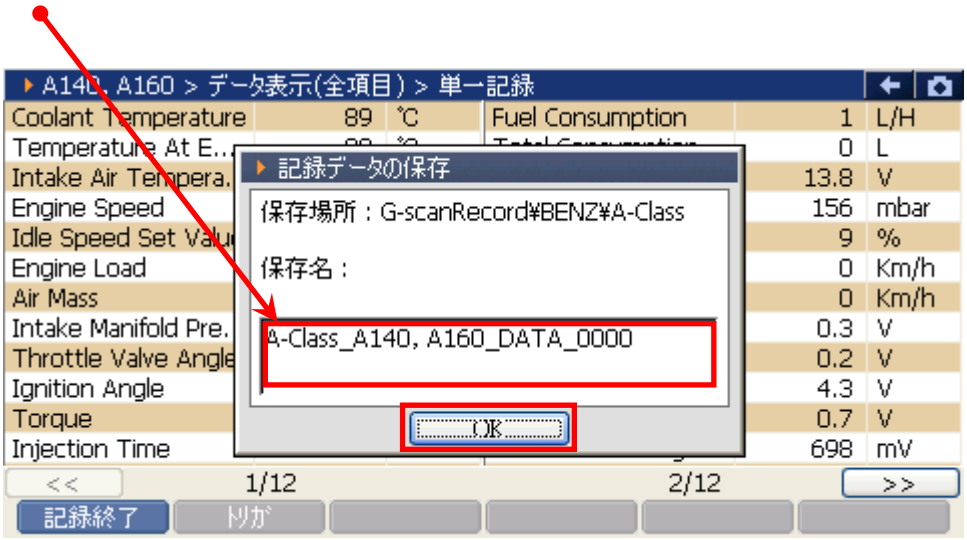


〈図：記録完了後ファイルの保存確認〉

④　保存ファイル名の確認画面が表示されます。

よろしければ、　　をタッチして記録データを保存してください。

ファイル名を変更する場合は、ファイル名が表示されている部分をタッチしてください。入力パネルが表示されます。入力パネルを操作してファイル名を変更してください。

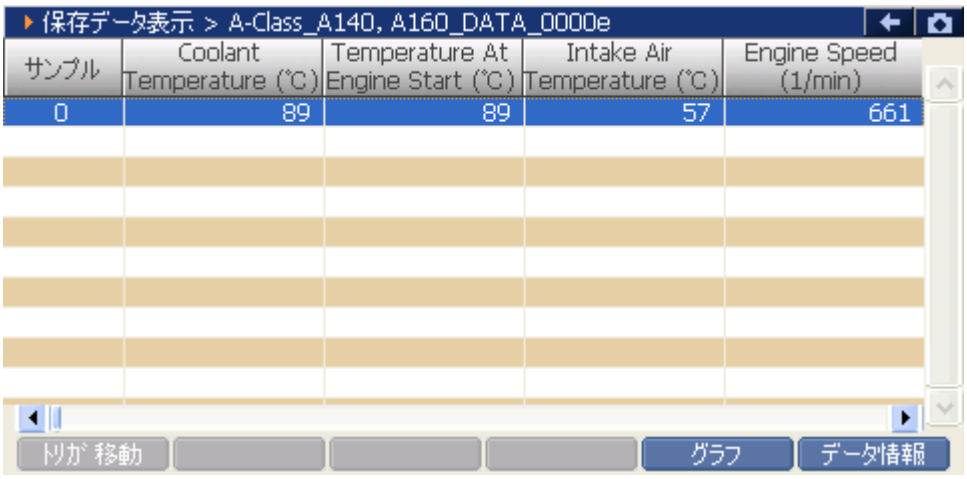


〈図：保存ファイル名の確認〉

〈図：保存ファイル名の変更〉

⑤ ファイルの保存が完了すると、記録したデータが表示されます。

詳細に関してはP50をご参照ください。



〈図：保存データ表示画面〉

⑥ 『連続記録』を選択すると、データの記録が開始されます。

『連続記録』では、連続したサンプルのデータを記録します。

〈図：連続記録で記録中〉

ﾄﾘｶﾞ トリガ機能を使用します。【詳細は⑦を参照】

記録終了 記録を終了します。【詳細はP45 ⑧を参照】

⑦ 記録中に ボタンをタッチ、又は ボタンを押すとトリガ機能を使用することができます。トリガ機能を使用するとトリガ前（-1.-2.-3サンプル……）、トリガ後（1.2.3サンプル……）のデータを記録することができます。

〈図：トリガボタンを選択〉

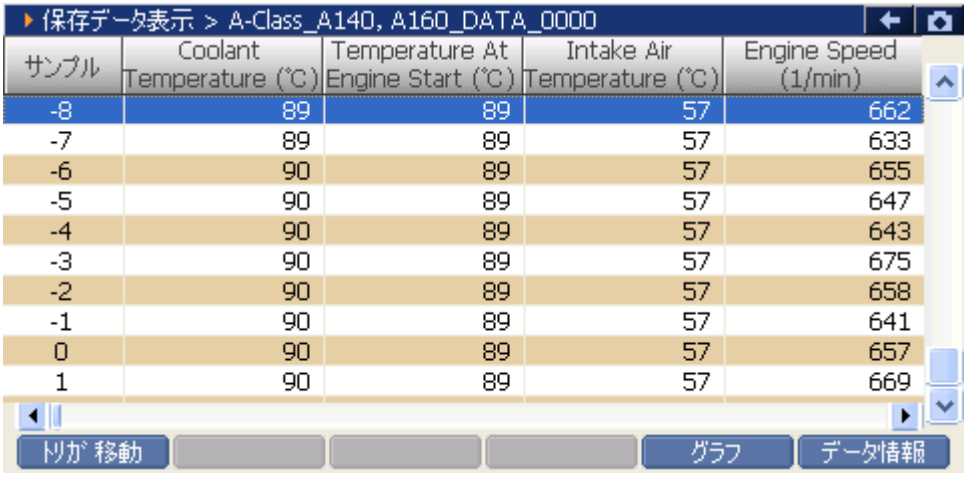
⑧ 記録を終了する場合は、　　ボタンをタッチ又は　　ボタンを押してください。尚、トリガ機能を使用しない場合、記録開始から記録終了まで（0サンプル～……）のデータを記録します。

記録終了後、記録したファイルを保存してください。ファイルの保存に関してはP41 ③、P42 ④をご参照ください。

〈図：記録終了〉

⑨ ファイルの保存が完了すると記録したデータが表示されます。

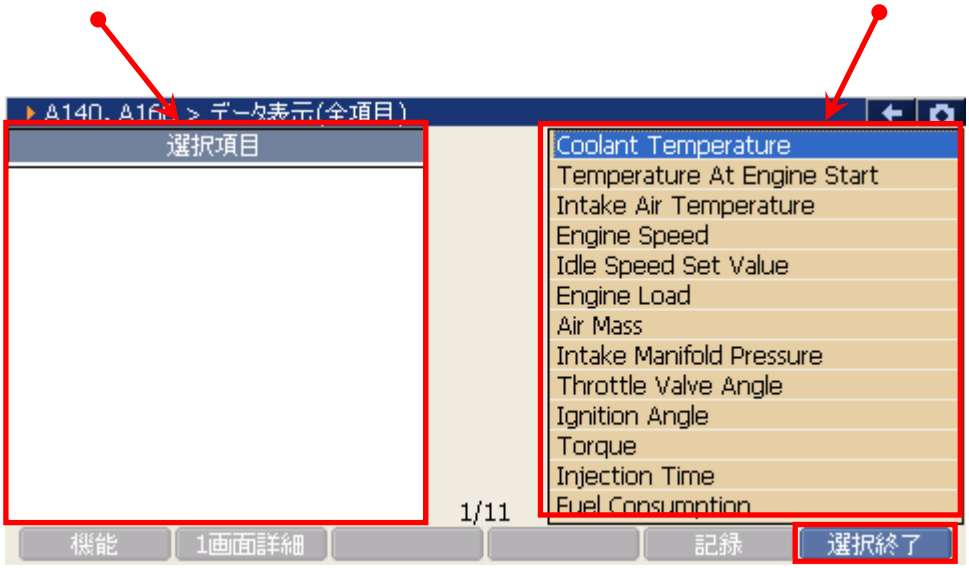
詳細に関してはP50をご参照ください。



〈図：保存データ表示画面〉

■　　ボタンの詳細

①　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押すと以下の画面が表示されます。



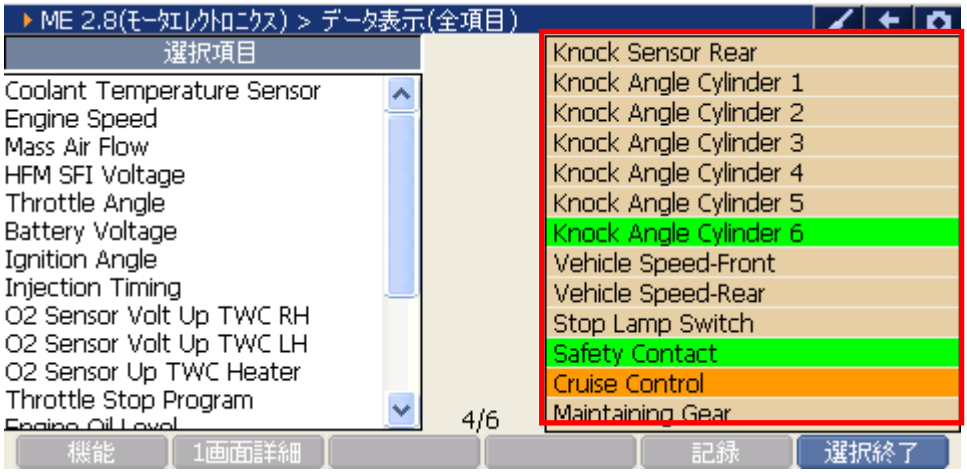
〈図:表示項目の選択〉

選択項目一覧　：　項目名が表示されます。

項目一覧　：　項目一覧が表示されます。

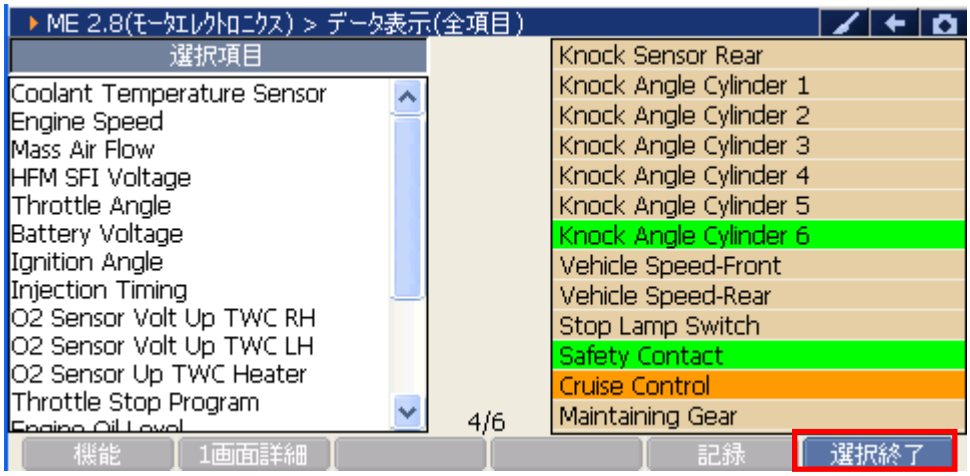
選択終了　選択を終了します。

② 項目一覧から、表示する項目を選択します。選択する項目にカーソルを合わせ　　ボタンを押して表示する項目を選択してください。　　ボタンを押すと次のページを表示します。



〈図:表示項目の選択〉

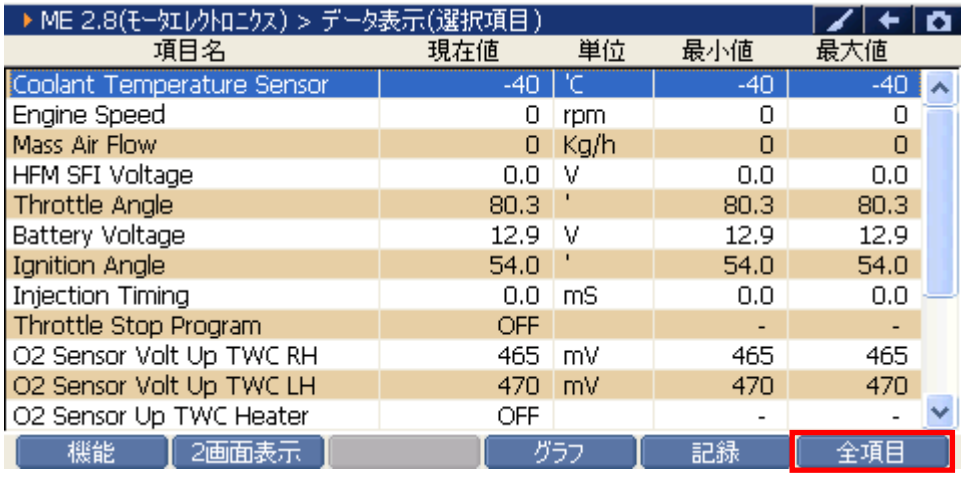
③ 項目の選択を終了する場合は、　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押してください。



〈図:選択の終了〉

④ データ表示画面に選択した項目が表示されます。

全項目の表示に戻す場合は、　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押してください。

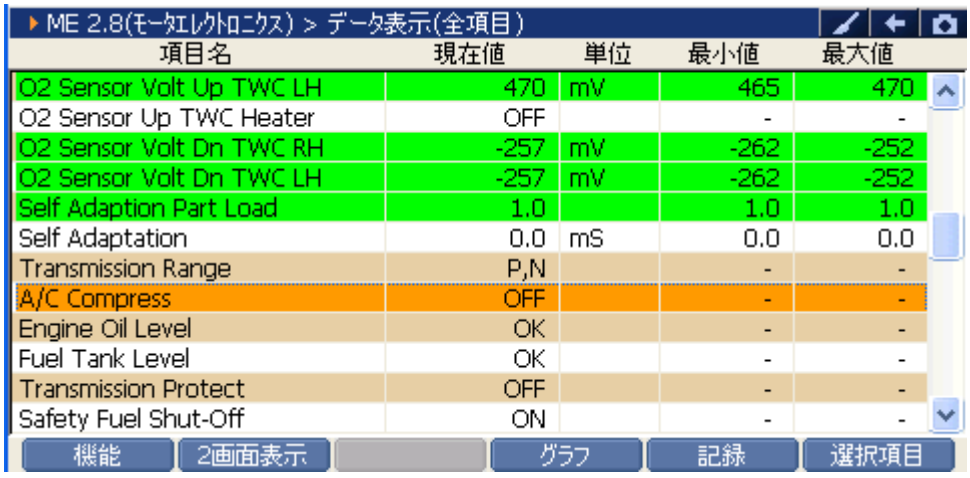


〈図:選択項目の表示〉

※1画面表示状態からも選択することができます。

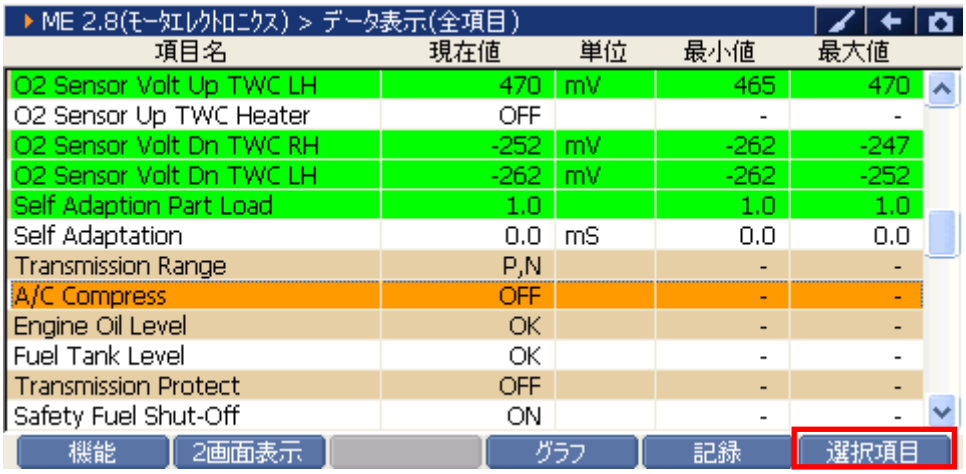
1画面表示上で選択する項目にカーソルを合わせてENTERボタンを押してください。

背景色が変わる事を確認して下さい。



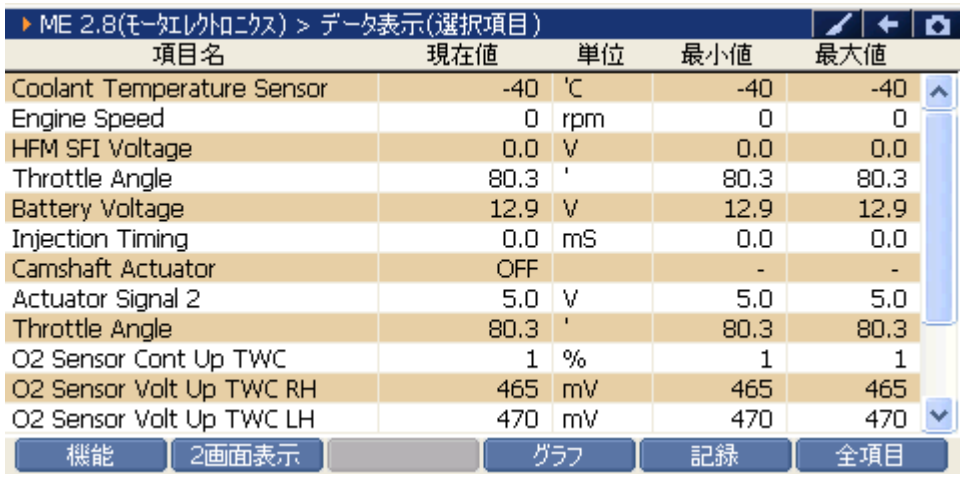
〈図:1画面表示で項目を選択している画面〉

選択が終了したら、選択項目を押してください。



〈図:1画面表示で項目を選択している画面〉

選択した項目を表示します。

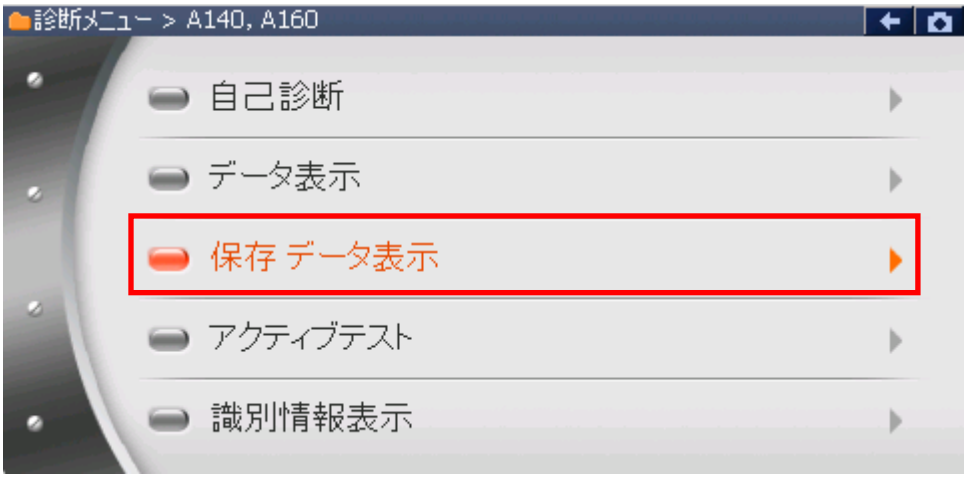


〈図:選択項目の表示〉

保存データ表示機能

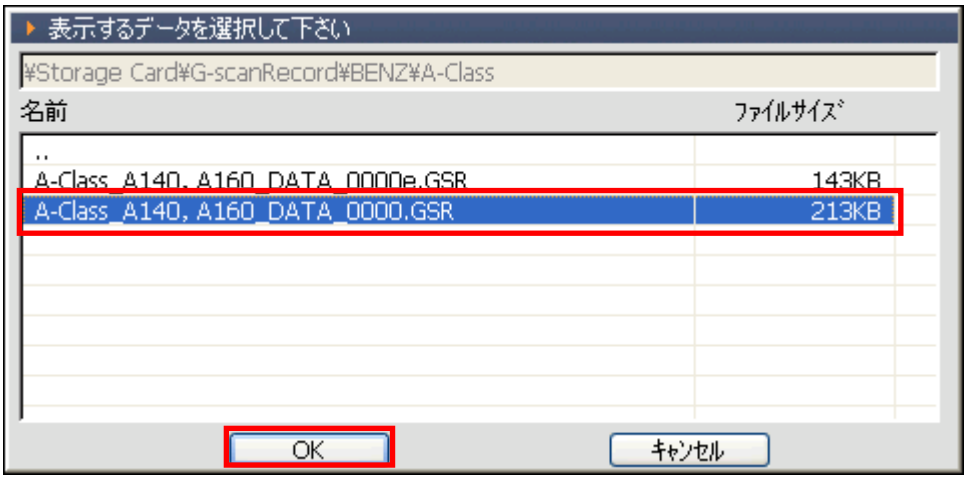
診断機能

1）保存データ表示機能ではデータ表示機能で記録、保存したデータを表示することができます。診断メニューにおいて『保存データ表示』を選択して　　ボタンを押してください。



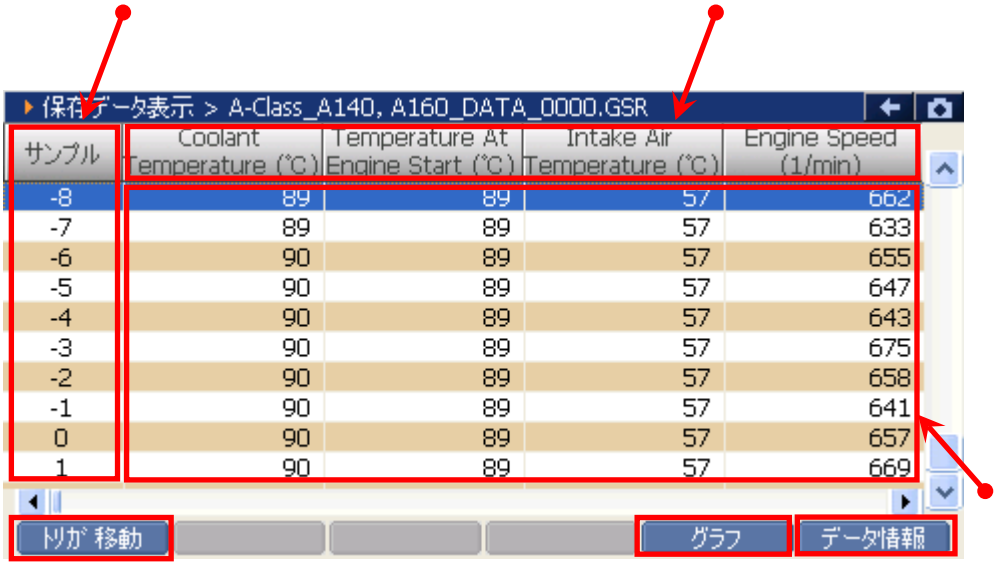
〈図：診断メニューにて保存データ表示を選択〉

2）保存ファイル名の一覧が表示されます。
表示するファイル名を選択して　　ボタンをタッチしてください。



〈図：保存ファイル一覧〉

3）データ表示で保存したデータが表示されます



〈図：保存データ表示画面〉

サンプル ： 記録数が表示されます。

記録項目名 ： 項目名が表示されます。
項目名の部分をタッチすると、横にスクロールした際その項目が固定されます。

記録値 ： 値が表示されます。

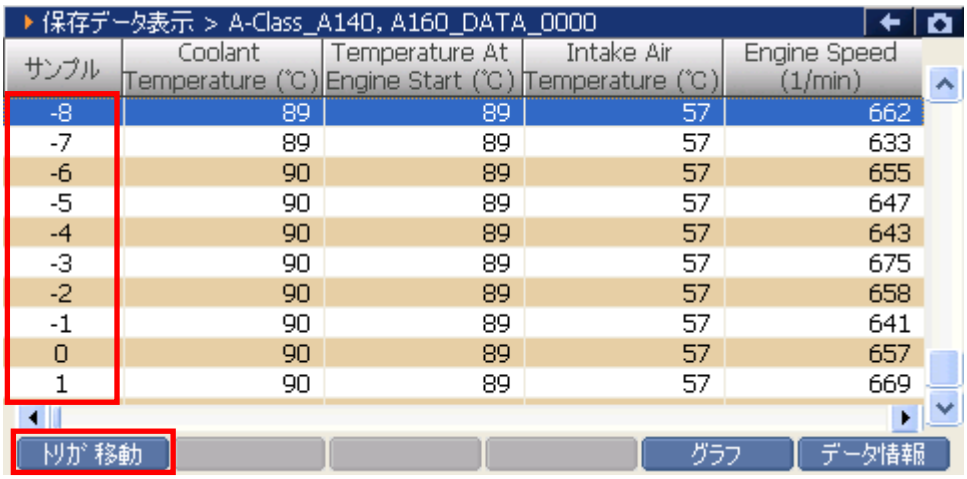
ﾄﾘｶﾞ移動 0サンプル位置に移動します。【詳細はP52を参照】

グラフ 記録したデータをグラフで表示します。【詳細はP53を参照】

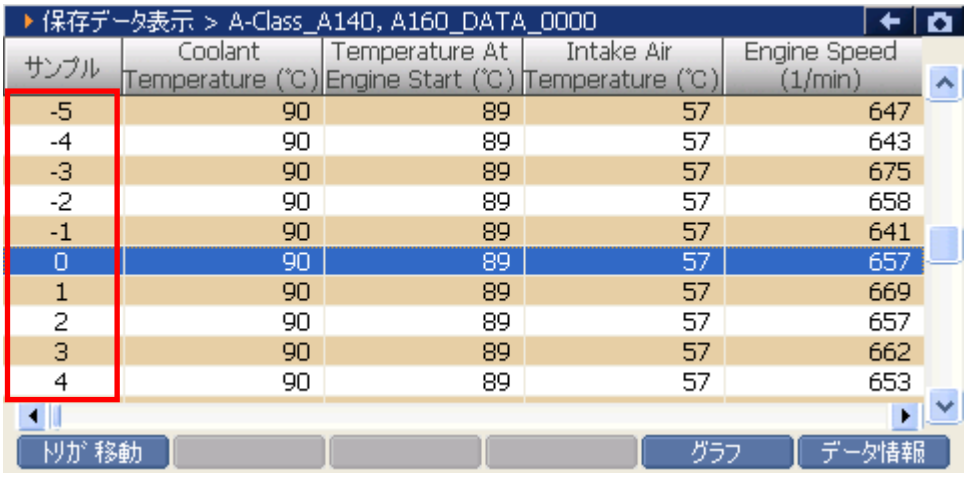
データ情報 保存したデータの情報を表示します。【詳細はP56を参照】

■　　ボタンの詳細

①　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押すとOサンプルの位置に移動します。



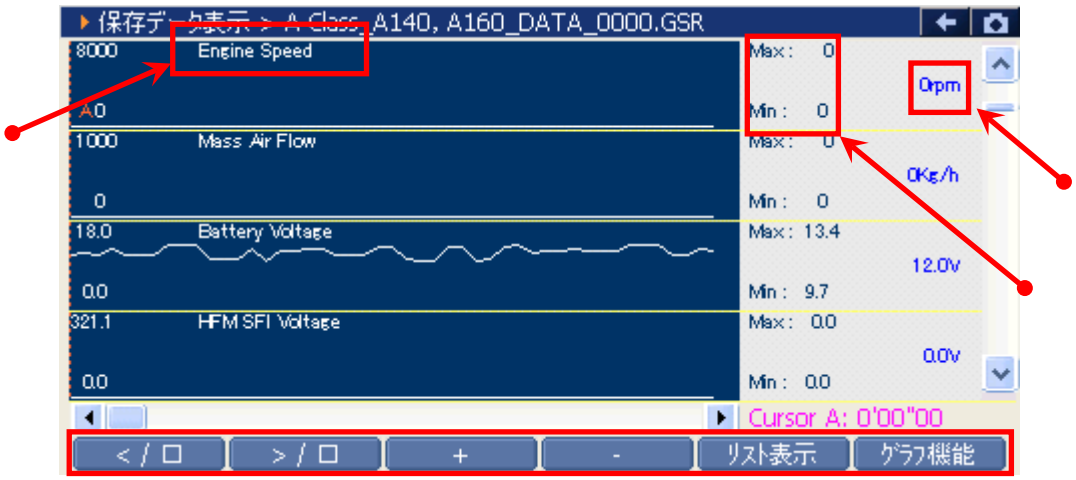
〈図:トリガ移動ボタンを選択〉



〈図:Oサンプル位置に移動〉

■ ボタンの詳細

① ボタンをタッチ、又は ボタンを押すと数値で表示されていたデータがグラフで表示されます。



〈図：記録データのグラフ表示〉

項目名 ： 項目名が表示されます。

記録値 ： カーソルA上の値が表示されます。

最大値/最小値 ： 最大値、最小値が表示されます。

< / □ グラフを左に送ります。

> / □ グラフを右に送ります。

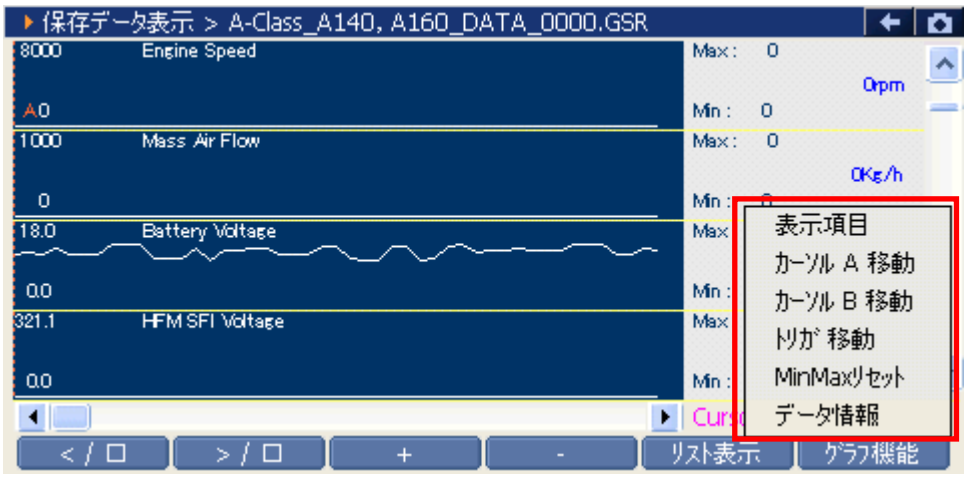
\+ グラフを拡大します。

\- グラフを縮小します。

ﾘｽﾄ表示 数値表示に戻ります。

ｸﾞﾗﾌ機能 グラフ機能を使用します。【詳細はP54 ②を参照】

② ボタンをタッチ、又は ボタンを押すと以下の画面が表示されます。



〈図:グラフ機能の詳細〉

表示項目 ： 表示する項目を選択します。【詳細は③を参照】

カーソルA移動 ： コントロールをカーソルAに移動します。【詳細はP55 ④を参照】

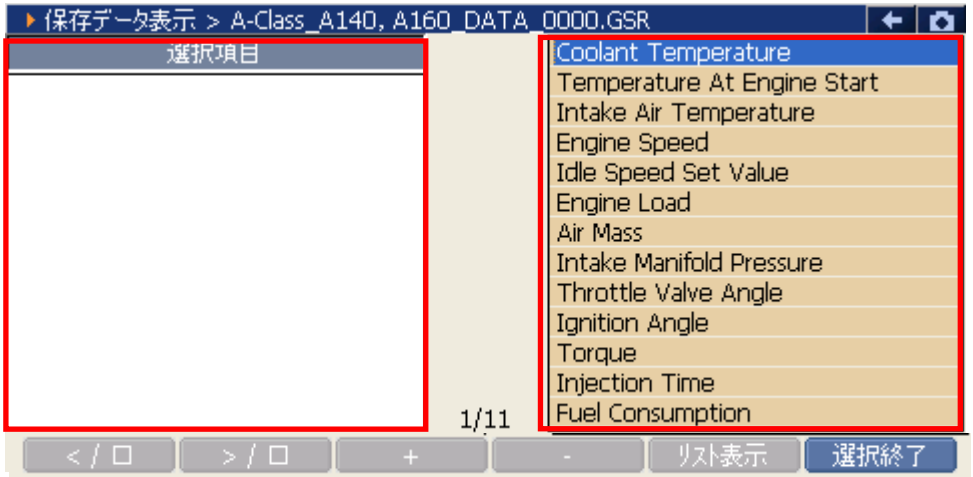
カーソルB移動 ： コントロールをカーソルBに移動します。【詳細はP55 ⑤を参照】

トリガ移動 ： カーソルAをトリガ位置(0サンプルの位置)に移動します。

MinMaxリセット ： 最大値、最小値をリセットします。

データ情報 ： 保存したデータ情報を表示します。【詳細はP56 ①を参照】

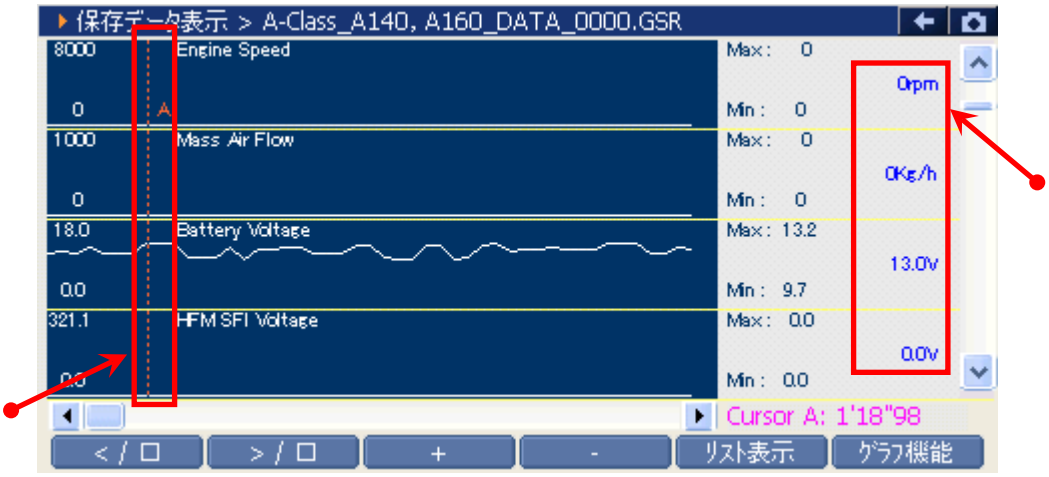
③ 『表示項目』を選択すると以下の画面が表示されますので、項目一覧から表示する項目にカーソルを合わせ ENTER ボタンを押して表示する項目を選択してください。 ◀ ▶ ボタンでページ移動します。 最大で12項目を選択可能です。



〈図:表示項目の選択〉

④ 『カーソルA移動』を選択するとカーソルAにコントロールが移ります。

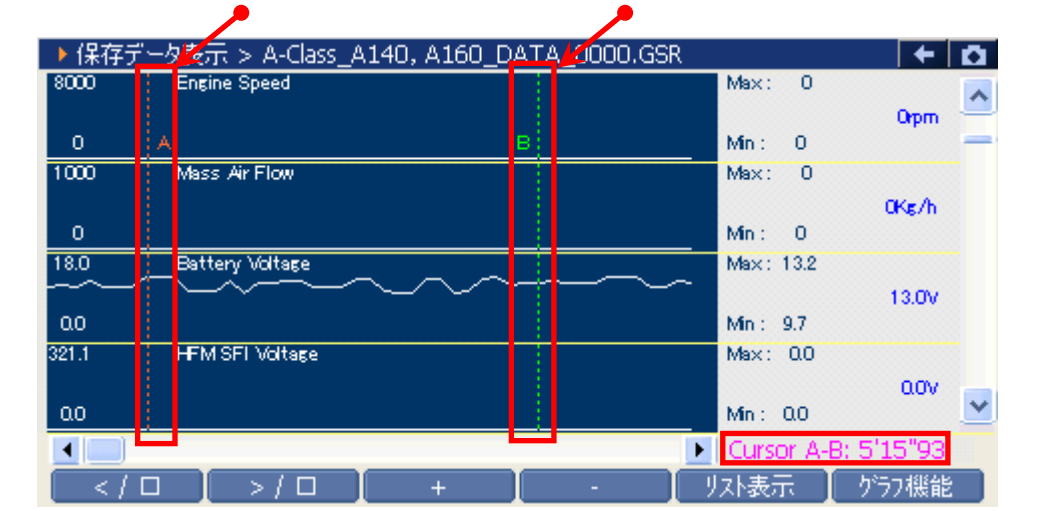
ボタンを押して、カーソルAを移動させてください。カーソルA上にある値が、記録値に表示されます。



〈図：カーソルAの移動〉

⑤ 『カーソルB移動』を選択するとカーソルBにコントロールが移ります。

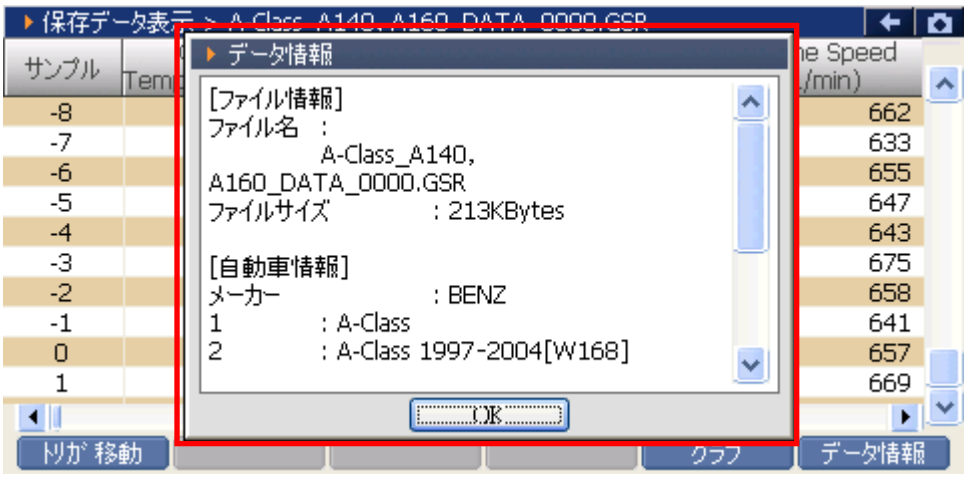
ボタンを押して、カーソルBを移動させてください。画面右下にカーソルAからカーソルBまでの時間が表示されます。



〈図：カーソルBを移動選択〉

■　　ボタンの詳細

①　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押すか、　　内の『データ情報』をタッチするとデータ情報画面が表示されます。データ情報画面では現在表示している保存データの詳細を表示します。



〈図：データ情報画面〉

アクティブテスト機能

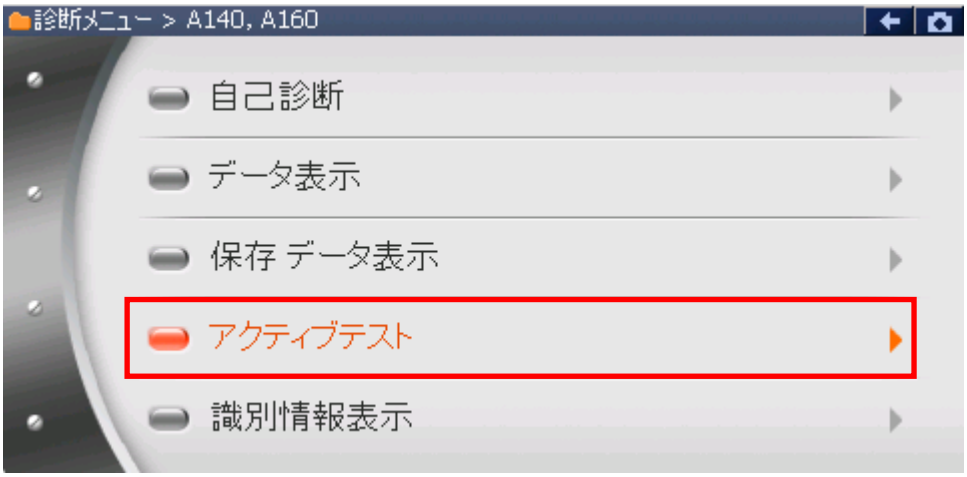
診断機能

警告

- アクティブテストはメルセデス･ベンツのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。
- 使用方法を間違えると車両に悪影響をおよぼし、事故発生の原因となる恐れがあります。
- アクティブテストは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）で実行してください。

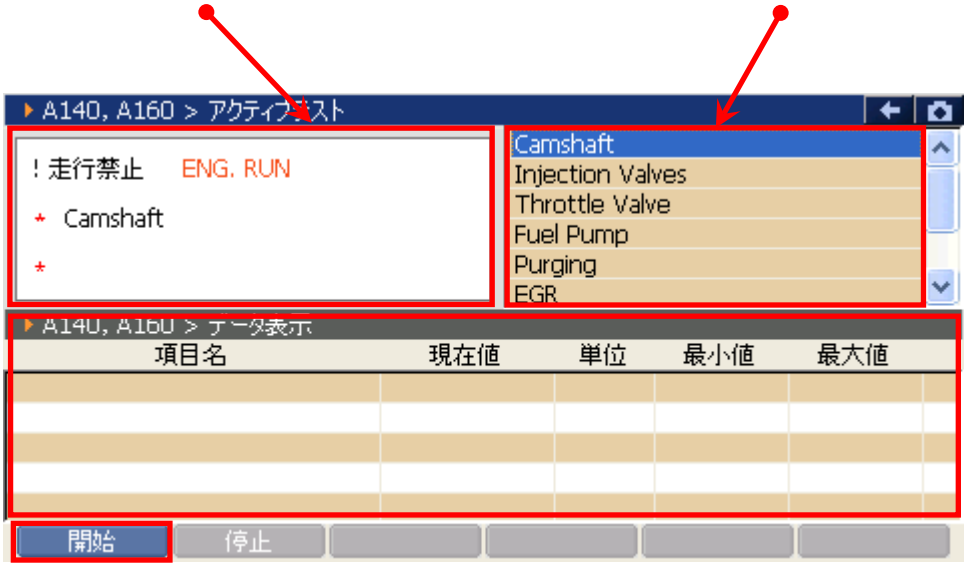
1）アクティブテストでは、G-scanから信号を送ることにより、アクチュエーターやソレノイド、モーターなどを動かしてテストすることが出来ます。

診断メニューにおいて『アクティブテスト』を選択して ENTER ボタンを押してください。



〈図：診断メニューにてアクティブテストを選択〉

2）アクティブテスト画面が表示されます。



〈図：アクティブテスト画面〉

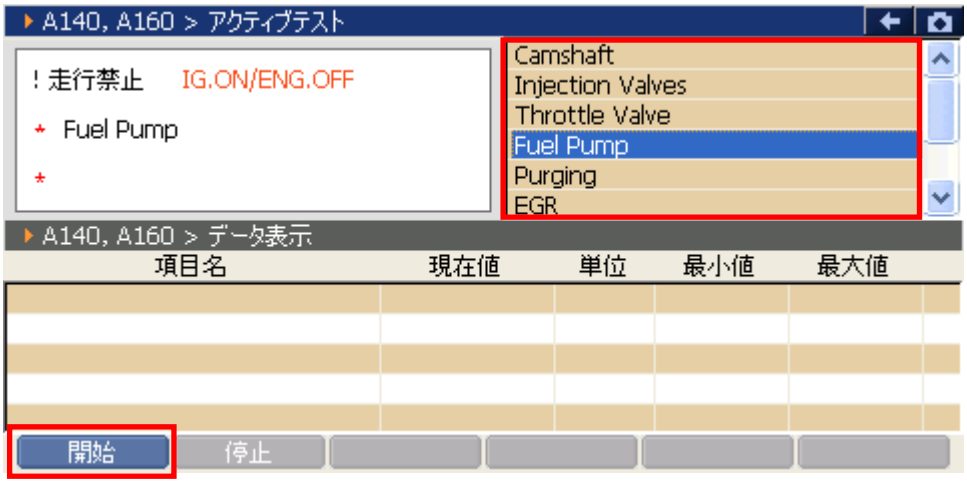
テスト状態表示部 ： テスト状態が表示されます。

項目一覧 ： アクティブテスト項目の一覧が表示されます。

データ表示部 ： アクティブテスト中のデータが表示されます。

開始 アクティブテストを開始します。【詳細はP59 3)を参照】

3）アクティブテスト項目一覧の中から実行する項目を選択して、　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押してください。



〈図：アクティブテスト開始〉

※注意と補足※

・　実行できるアクティブテスト項目は車種、システムによって異なります。

4）アクティブテストが開始されます。アクティブテスト実行ボタンを操作してアクティブテストを行ってください。アクティブテストを停止する場合は　　ボタンをタッチ、又は　　ボタンを押してください。

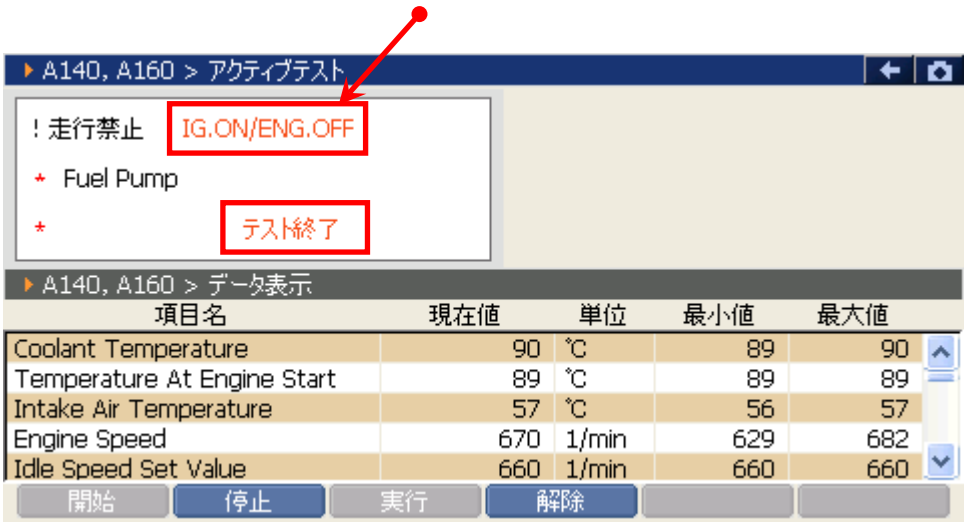
〈図：FPリレー　アクティブテスト実行例〉

※注意と補足※

- P59　4）の画面はFuel Pumpのアクティブテスト実行画面です。アクティブテスト実行ボタンに表示される内容は実行するアクティブテストによって異なります。
- アクティブテストにはテスト条件がある項目があります。

  テスト条件を超えた場合、テスト状態表示部に『テスト失敗』と表示されます。

  『テスト失敗』と表示された場合、車両を以下の部分に表示されたテスト条件にして、再度アクティブテストを実行してください。



〈図：アクティブテスト失敗〉

サービスリセット機能

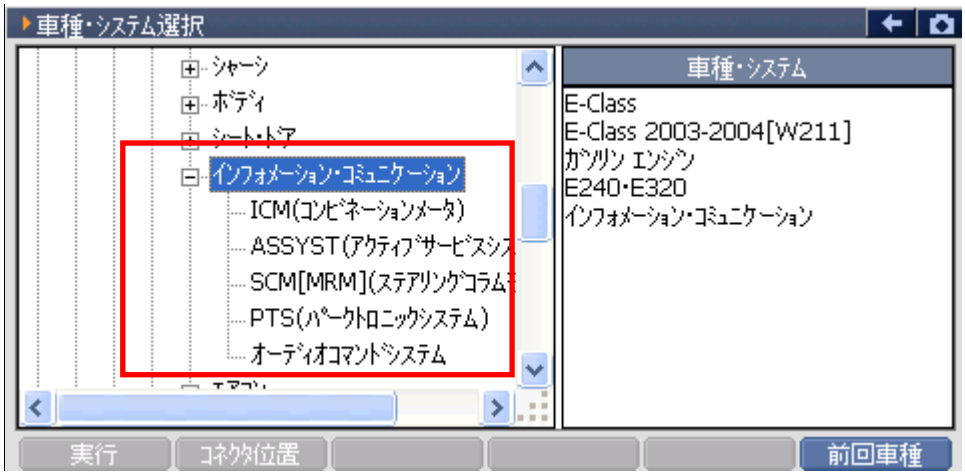
診断機能

警告

- サービスリセットはメルセデス・ベンツのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。
- 使用方法を間違えると車両に悪影響をおよぼし、事故発生の原因となる恐れがあります。
- サービスリセットは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）で実行してください。

1）サービスリセットでは、インストルメントクラスタに表示されるメンテナンス情報のリセットを行なうことが出来ます。

車種・システム選択画面にて『インフォメーション・コミュニケーション』を選択して ENTER ボタンを押してください。システムの詳細が表示されます。



〈図：車種・システム選択画面にてインフォメーション/コミュニケーションを選択〉

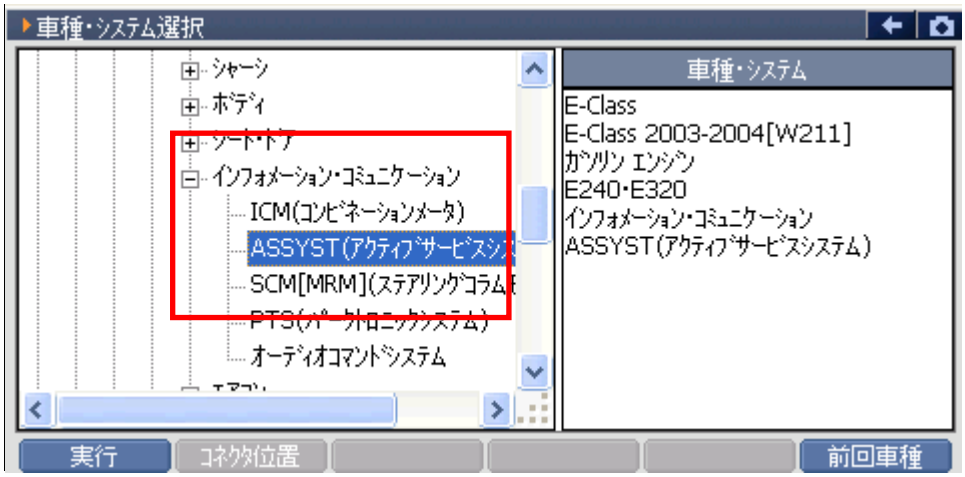
2）接続する車両によって、サービスリセットを行なうシステム名が異なりますので、

『ASSYST(ｱｸﾃｨﾌﾞｻｰﾋﾞｽｼｽﾃﾑ)』、『KI･ICM･KIL(ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾒｰﾀ)』または、

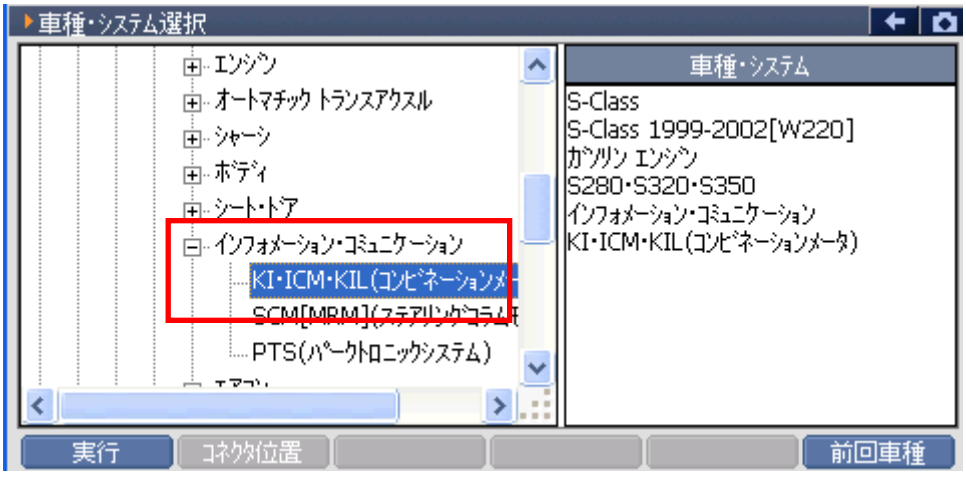
『ICM(ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾒｰﾀ)』を選択して ENTER ボタンを押してください。

通信が開始され診断メニューが表示されます。

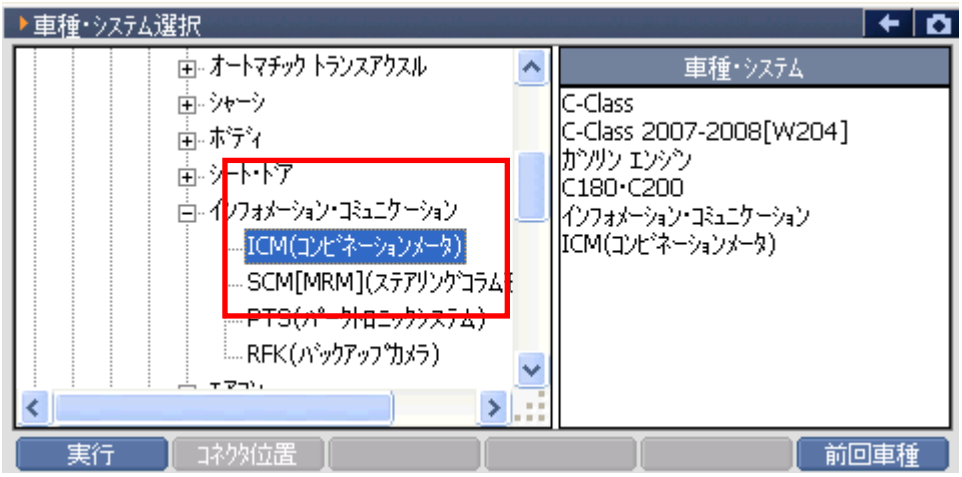
※上記のシステム名はどれか一つしか表示されません。



〈図：ASSYST（アクティブサービスシステム）選択画面〉

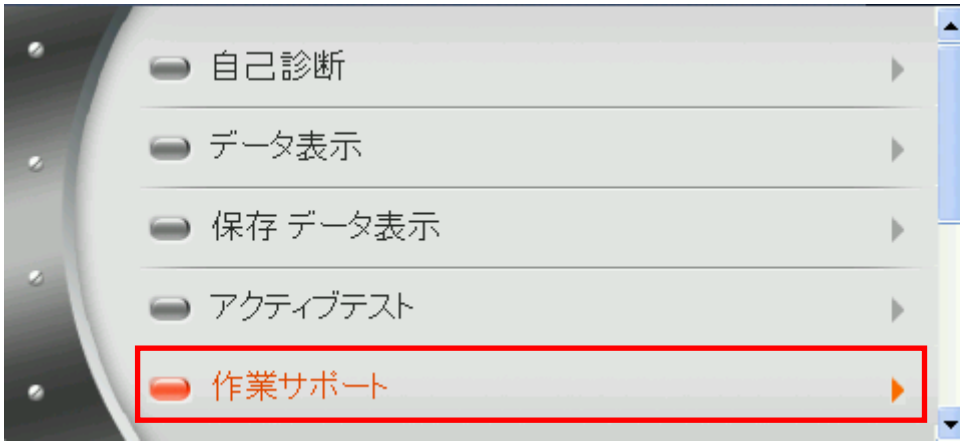


〈図：KI･ICM･KIL(コンビネーションメータ)選択画面〉



〈図：ICM(コンビネーションメータ)選択画面〉

3）診断メニューにおいて『作業サポート』を選択して ENTER ボタンを押してください。

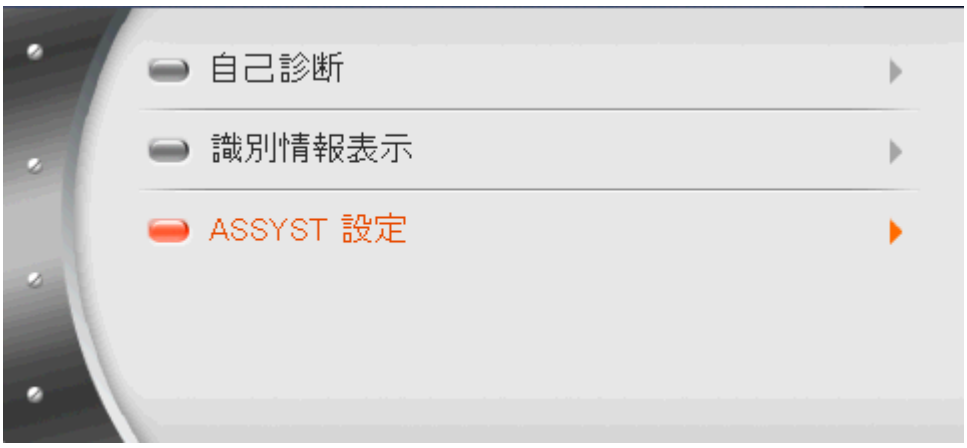


〈図：診断メニューにて作業サポートを選択〉

※注意と補足※

・ 車種・システム選択画面で『ICM(ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾒｰﾀ)』を選択した場合は、上記の画面ではなく、下記の画面が表示されます。

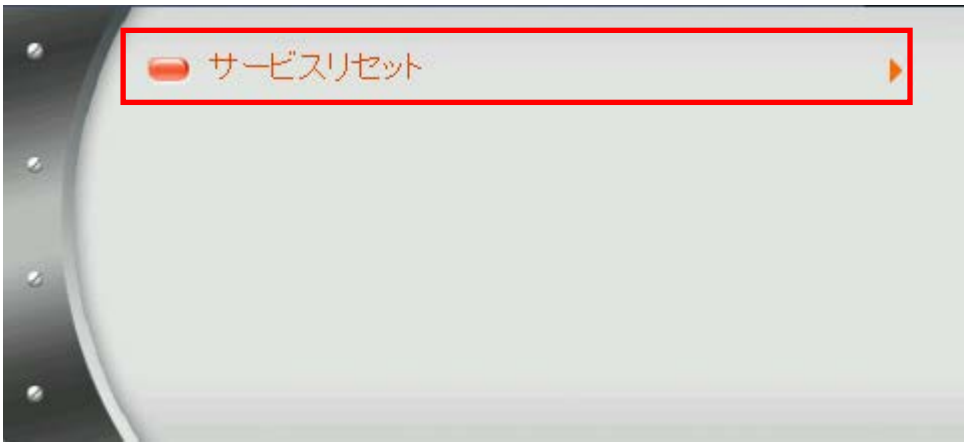
『ASSYST設定』を選択すると、タイプ3のサービスリセット画面に移ります。



4）『作業サポート』選択後の診断メニューにおいて『サービスリセット』を選択して

ENTER ボタンを押してください。サービスリセット画面が表示されます。

※車種・システム選択画面で『ICM(ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾒｰﾀ)』を選択した場合、この画面は表示されません。



〈図：診断メニューにてサービスリセットを選択〉

※注意と補足※

・ メルセデス・ベンツのサービスリセットには、タイプ1～3の3種類のタイプがあります。

タイプ1	サービスリセットのみが行えるタイプです。【詳細はP66を参照】
タイプ2	メンテナンス情報表示（設定）が行えるタイプです。【詳細はP69を参照】
タイプ3	サービスリセットのみが行えるタイプです。【詳細はP78を参照】

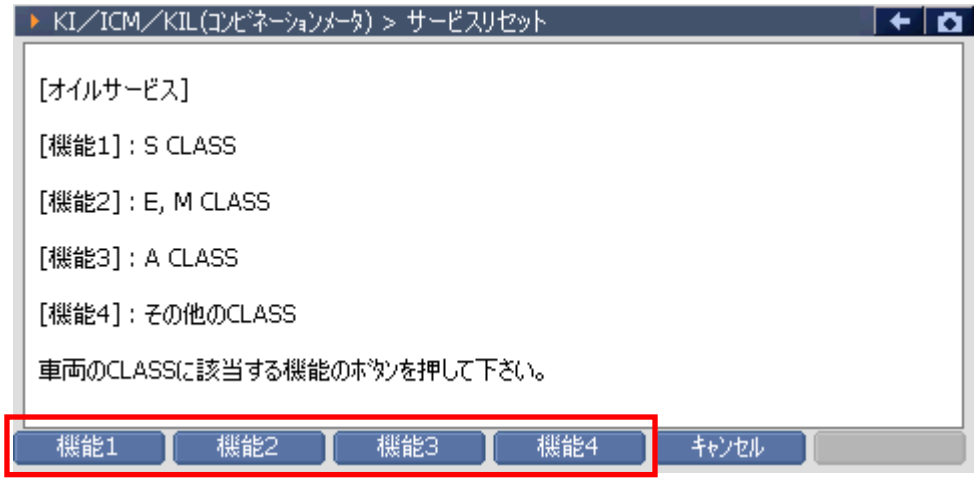
・ タイプの種類は接続車両（選択システム【詳細はP62を参照】）によって異なります。

KI･ICM･KIL(コンビネーションメータ)	タイプ1
ASSYST（アクティブサービスシステム）	タイプ1、タイプ2
ICM(コンビネーションメータ)	タイプ3

≪サービスリセット　タイプ1の場合≫

1）CLASS選択画面が表示されます。

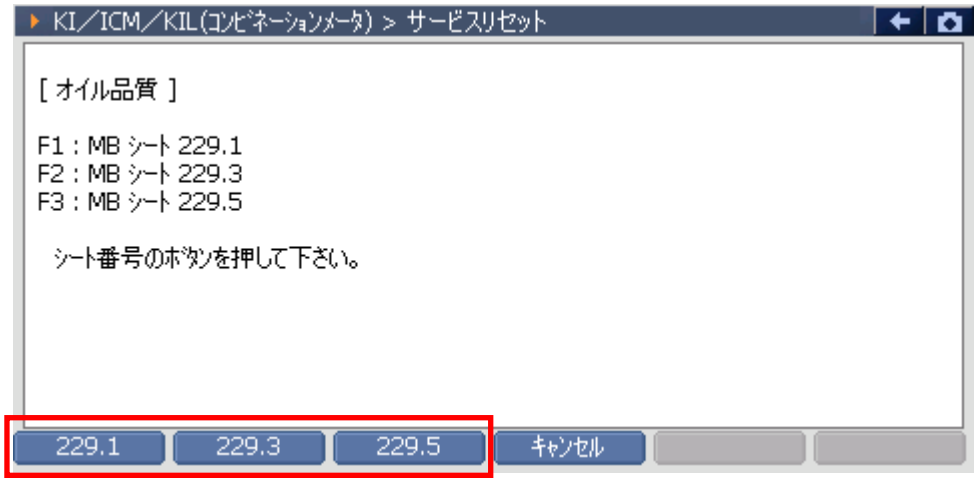
車両のCLASSに該当する機能ボタンをタッチしてください。



〈図：CLASS選択画面〉

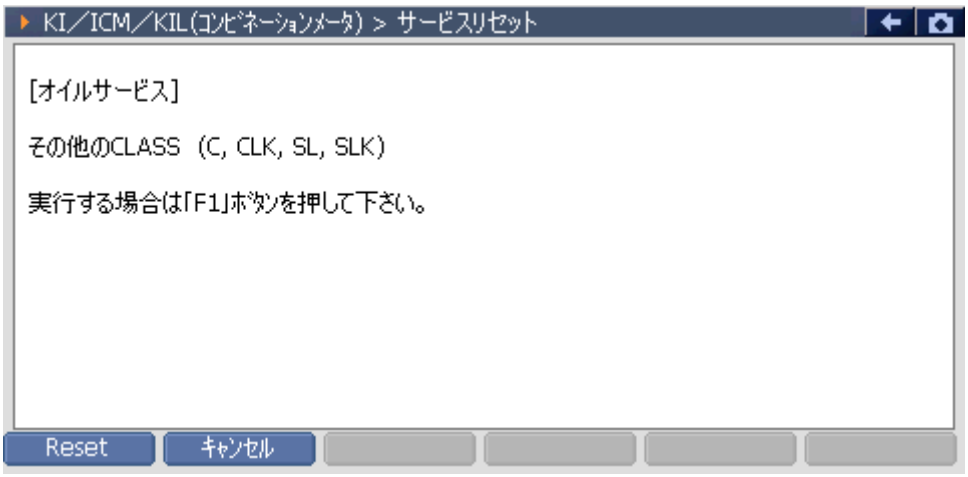
2）オイル品質選択画面が表示されます。

実際に交換したオイル品質に該当するボタンをタッチしてください。サービスリセットが開始されます。



〈図：オイル品質選択画面〉

その他のCLASS（機能4）を選択した場合は、オイル品質選択画面は表示されずに、サービスリセットの確認画面が表示されます。



〈図：リセット実行確認画面〉

※注意と補足※

- 指定したオイル品質にあわせて次回のメンテナンスランプ点灯までの走行距離が設定されます。

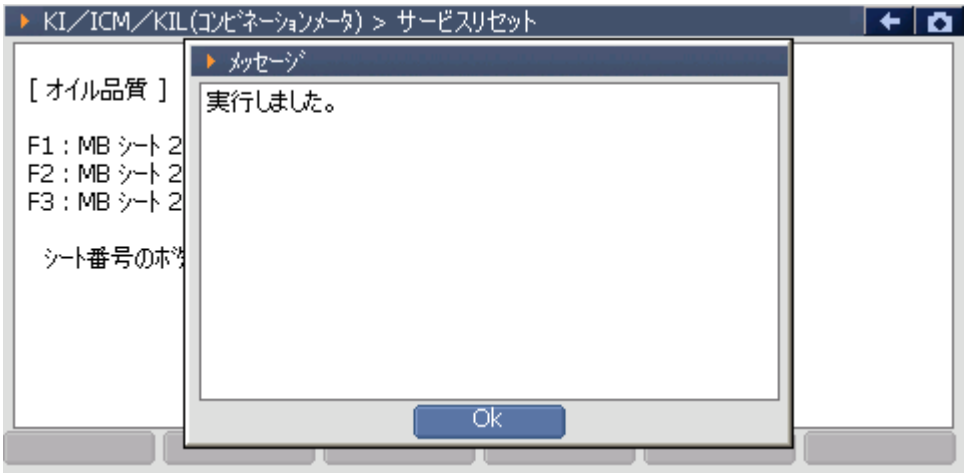
例） A160（WDB168.033）の場合

オイル品質	次回交換までの残り走行距離
MB シート 229.1、MB シート 229.3	15.000Km
MB シート 229.5	20.000Km

- シートとはメルセデス･ベンツが発行している『燃料油脂承認済みオイルリスト』のシート番号のことです。各シートにはメルセデス・ベンツにより承認された各オイルメーカーのオイルの製品名が記載されています。

  品質の高いほうからシート229.5→229.3→229.1の順になっています。

3）サービスリセットが正常に終了すると、『実行しました。』と表示されます。
CLASS指定が間違っていたり、または、サービスリセットが実行できない車両の場合には『実行できませんでした。』と表示されます。

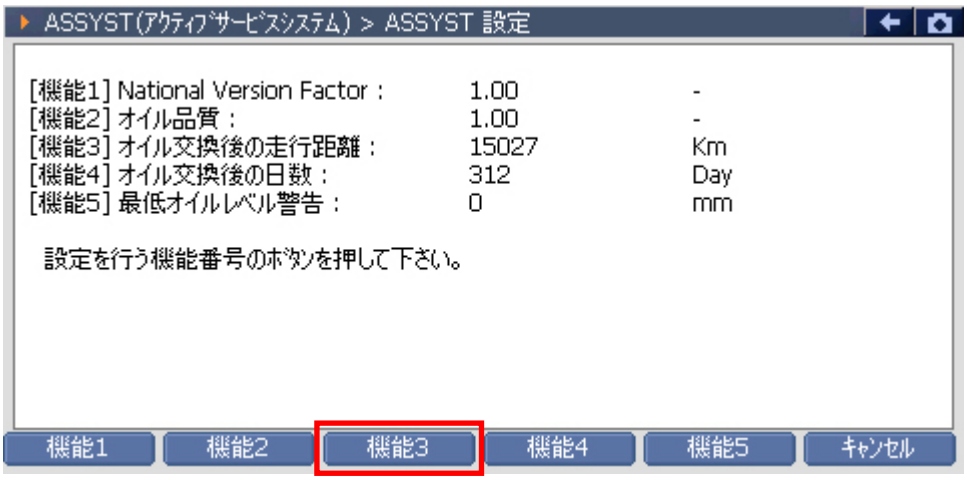


〈図：サービスリセット終了メッセージ〉

≪サービスリセット　タイプ2の場合≫

1）現在のメンテナンス情報（オイル品質やオイル交換後の走行距離など）が表示されます。

サービスリセットを行なうにあたり、オイル交換後の走行距離を「0 Km」に設定する必要がありますので、『オイル交換後の走行距離』に該当する機能ボタン（ここでは機能3ボタン）をタッチしてください。



〈図：メンテナンス情報表示画面〉

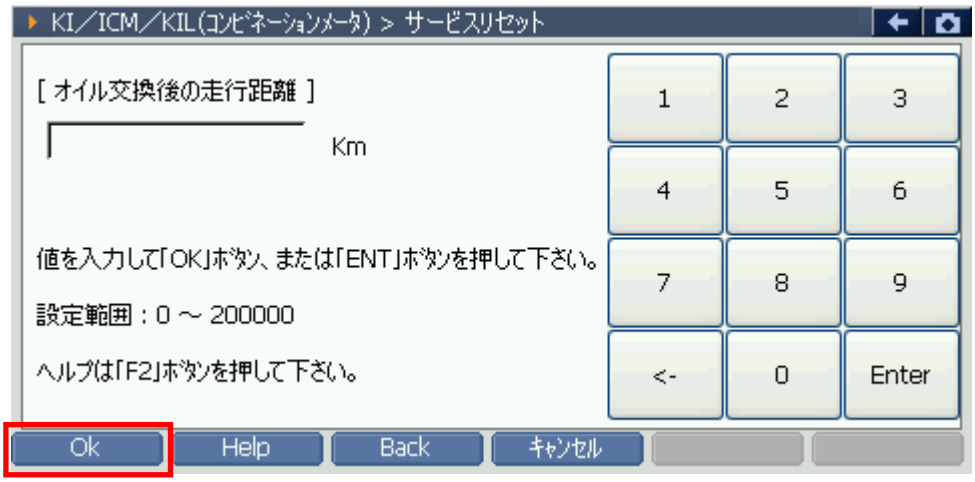
National Version Factor	メンテナンス間隔を設定します。 【詳細はP74を参照】
オイル品質	オイル品質を表示しています。
オイル交換後の走行距離	前回オイル交換後から現在までの走行距離を表示しています。
オイル交換後の日数	前回オイル交換後から現在までの日数を表示しています。
最低オイルレベル警告	最低オイルレベル警告値を表示しています。 【詳細はP77を参照】

※注意と補足※

- 『National Version Factor』は、接続する車両によっては表示されません。
- タイプ2ではサービスリセットを行なうにあたり、『オイル交換後の走行距離』と『オイル交換後の日数』を「0」に設定する必要があります。

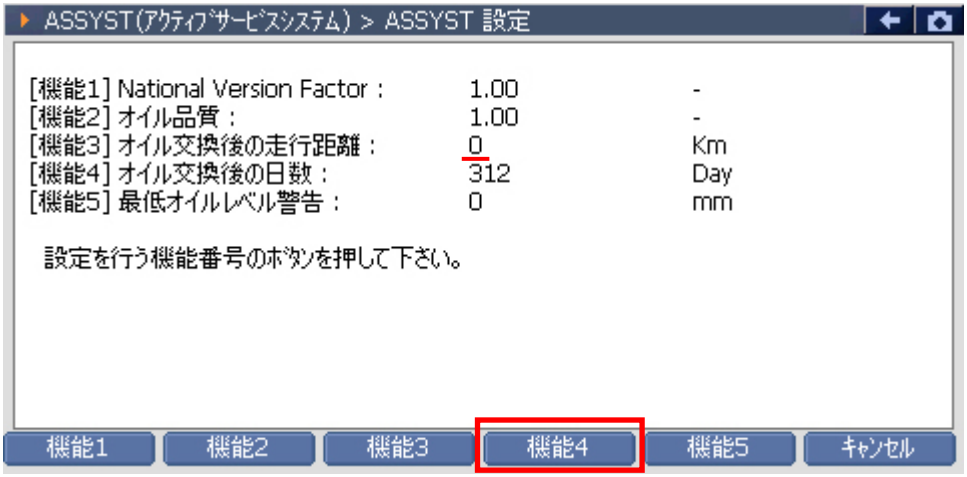
2) オイル交換後の走行距離設定画面が表示されます。

タッチパネルから「0」を入力し、Ok ボタン又は、Enter ボタンをタッチしてください。設定が反映され、メンテナンス情報表示画面に戻ります。



〈図:オイル交換後の走行距離設定画面〉

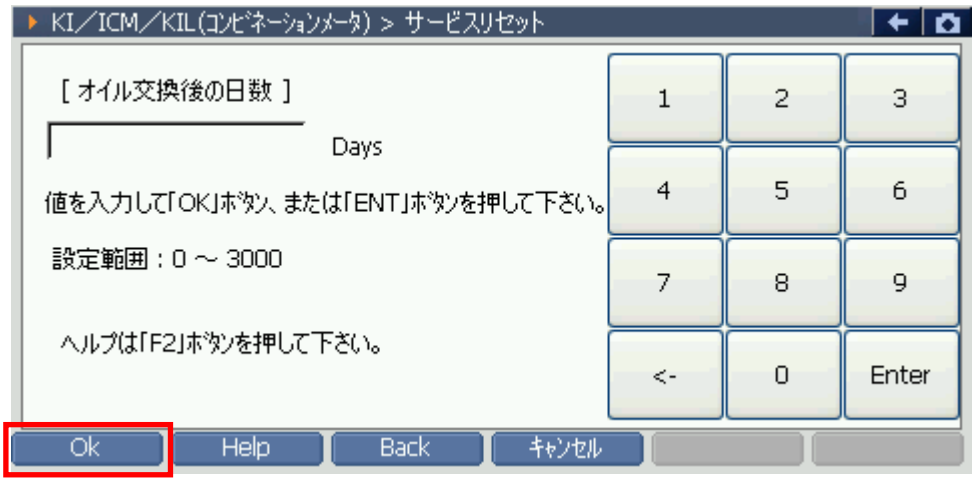
3) 『オイル交換後の走行距離』が「0 Km」に変更されていることを確認してください。サービスリセットを行なうにあたり、オイル交換後の日数を「0 Day」に設定する必要がありますので、『オイル交換後の日数』に該当する機能ボタン(ここでは機能4ボタン)をタッチしてください。



〈図:メンテナンス情報表示画面〉

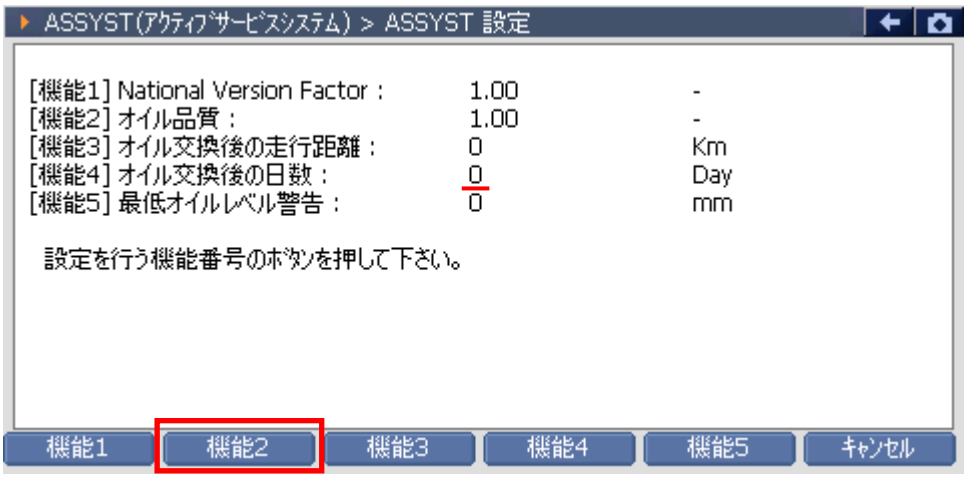
4）オイル交換後の日数設定画面が表示されます。

タッチパネルから「0」を入力し、Ok ボタン又は、Enter ボタンをタッチしてください。設定が反映され、メンテナンス情報表示画面に戻ります。



〈図：オイル交換後の走行距離設定画面〉

5）『オイル交換後の走行距離』が「0 Day」に変更されていることを確認してください。実際に交換したオイル品質を選択しますので、『オイル品質』に該当するボタンをタッチしてください。（ここでは機能2）

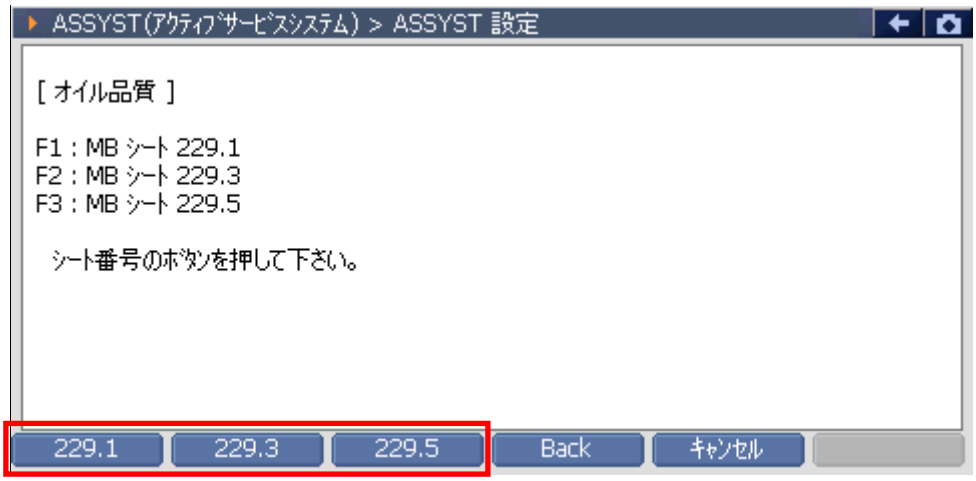


〈図：メンテナンス情報表示画面〉

6）オイル品質選択画面が表示されます。

実際に交換したオイル品質に該当するボタンをタッチしてください。

サービスリセットが開始されます



〈図：オイル品質選択画面〉

7）サービスリセットが正常に終了すると、『実行しました。』と表示されます。

以上でサービスリセットが完了しました。

Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

〈図：サービスリセット終了メッセージ〉

※注意と補足※

- **接続車両によっては、G-scan上でのサービスリセットが完了しても 図1 の様にインストルメントクラスタ内の表示がリセットされない場合があります。**

  インストルメントクラスタ内の表示をリセットするには、車両のIG SWを一旦OFFにした後、エンジンを始動して数分経つと図2のようにインストルメントクラスタ内の表示もリセットされます。

〈図1〉

〈図2〉

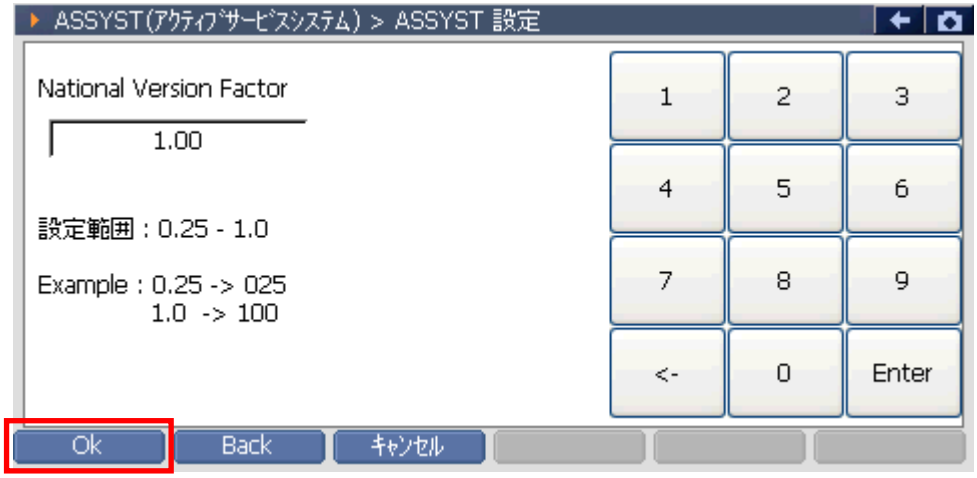
- サービスリセット実施中のスイッチ類表示灯の点滅または点灯は、車両側との通信状況を表しています。

■ 『National Version Factor』の詳細

・『メンテナンス間隔』を設定できます。

① 『National Version Factor』に該当する機能ボタン（ここでは機能1ボタン）をタッチしてください。以下の画面が表示されます。

設定範囲内（0.25～1.0）の値をタッチパネルから入力し、Ok ボタンか Enter ボタンをタッチすると設定が反映され、サービスリセット情報表示画面に戻ります。



〈図：National Version Factor設定画面〉

<- BackSpaceボタンです。入力した数値を1文字分削除します。

Back 1つ前の画面に戻ります。

ｷｬﾝｾﾙ 診断メニュー画面まで戻ります。

※注意と補足※

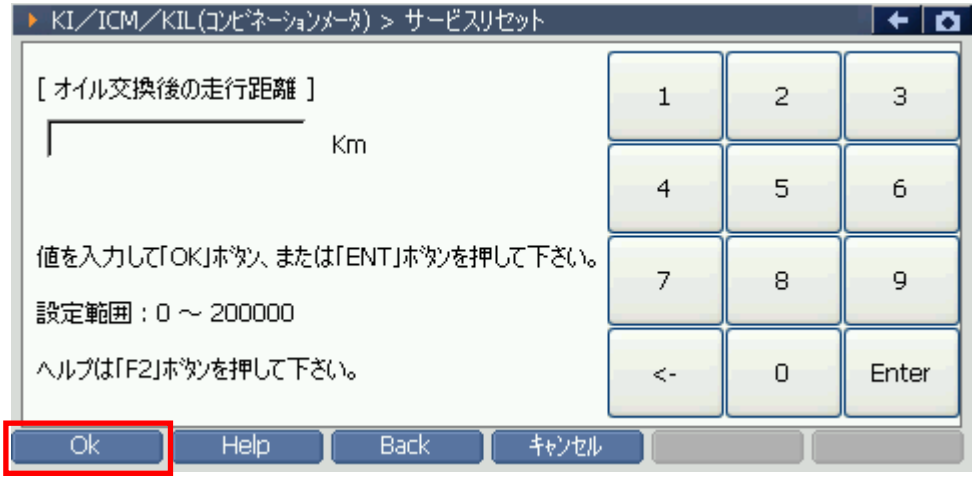
- **通常は「1.0」を設定します。**

■ 『オイル交換後の走行距離』の詳細

・『オイル交換後の走行距離』を設定できます。

サービスリセットで使用する以外には、誤ってサービスリセットを行った場合に項目値を再設定するために使用します。

① 『オイル交換後の走行距離』に該当する機能ボタン（ここでは機能3ボタン）をタッチしてください。以下の画面が表示されます。
設定範囲内（0～200000）の値をタッチパネルから入力し、Ok ボタンか Enter ボタンをタッチすると設定が反映され、サービスリセット情報表示画面に戻ります。



〈図：オイル交換後の走行距離設定画面〉

<- BackSpaceボタンです。入力した数値を1文字分削除します。

Help 『オイル交換後の走行距離』の設定に関するヘルプ画面を開きます。

Back 1つ前の画面に戻ります。

ｷｬﾝｾﾙ 診断メニュー画面まで戻ります。

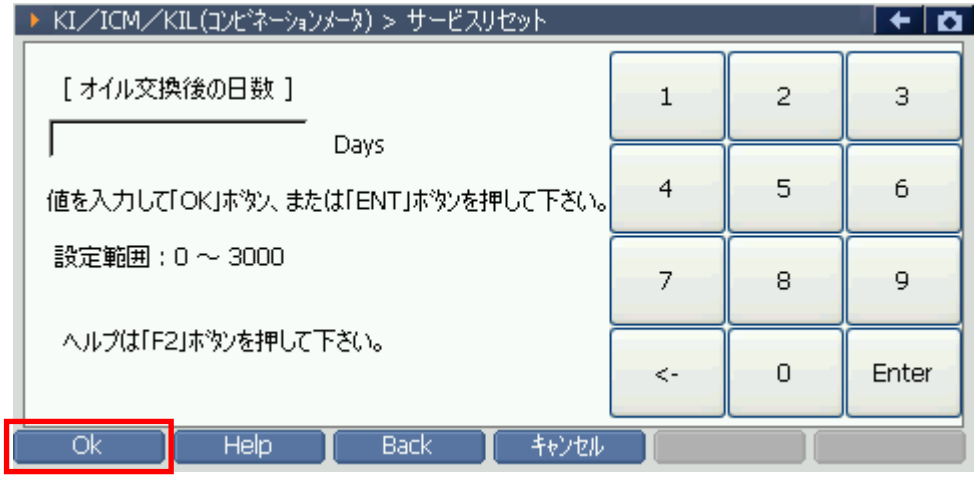
■ 『オイル交換後の日数』の詳細

・『オイル交換後の日数』を設定できます。

サービスリセットで使用する以外には、誤ってサービスリセットを行った場合に項目値を再設定するために使用します。

① 『オイル交換後の日数』に該当する機能ボタン（ここでは機能4ボタン）をタッチしてください。以下の画面が表示されます。

設定範囲内（0～3000）の値をタッチパネルから入力し、Ok ボタンか Enter ボタンをタッチすると設定が反映され、サービスリセット情報表示画面に戻ります。



〈図：オイル交換後の日数設定画面〉

<- BackSpaceボタンです。入力した数値を1文字分削除します。

Help 『オイル交換後の日数』の設定に関するヘルプ画面を開きます。

Back 1つ前の画面に戻ります。

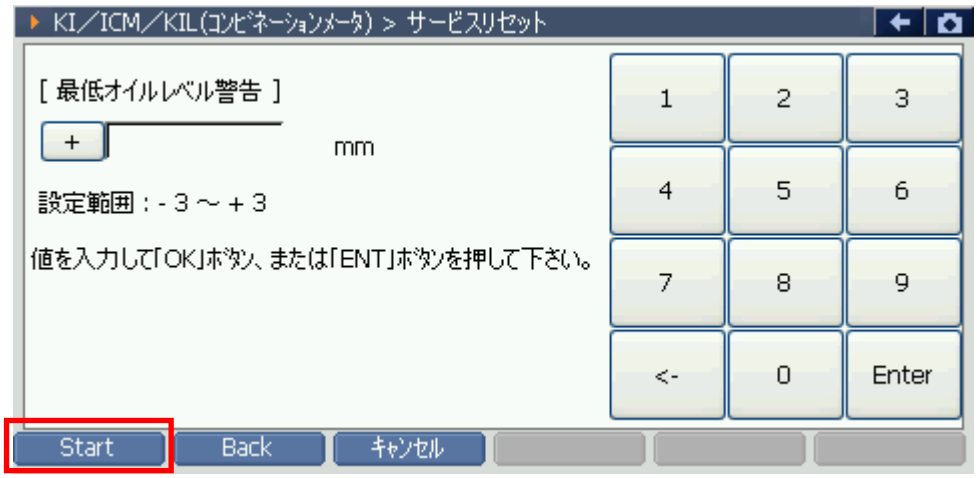
ｷｬﾝｾﾙ 診断メニュー画面まで戻ります。

■ 『最低オイルレベル警告』ボタンの詳細

・『最低オイルレベル警告』を設定できます。

① 『最低オイルレベル警告』ボタンに該当する機能ボタン（ここでは機能5ボタン）をタッチしてください。以下の画面が表示されます。

設定範囲内（−3～+3）の値をタッチパネルから入力し、Start ボタンか Enter ボタンをタッチすると設定が反映され、サービスリセット情報表示画面に戻ります。



〈図：最低オイルレベル警告設定画面〉

＋ － 符号を切替えます。

<- BackSpaceボタンです。入力した数値を1文字分削除します。

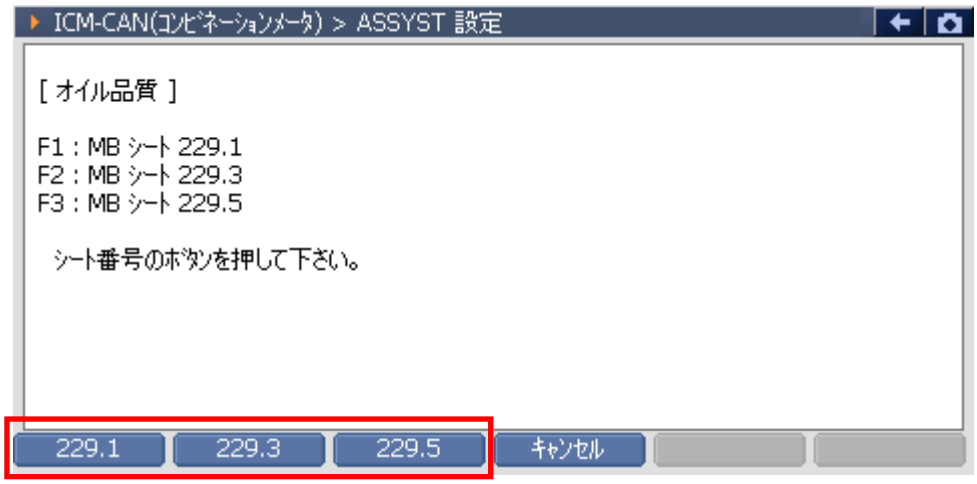
Back 1つ前の画面に戻ります。

ｷｬﾝｾﾙ 診断メニュー画面まで戻ります。

≪サービスリセット　タイプ3の場合≫

1）オイル品質選択画面が表示されます。

実際に交換したオイル品質に該当するボタンをタッチしてください。サービスリセットが開始されます。



〈図:オイル品質選択画面〉

※注意と補足※

・　指定したオイル品質にあわせて次回のメンテナンスランプ点灯までの走行距離が設定されます。

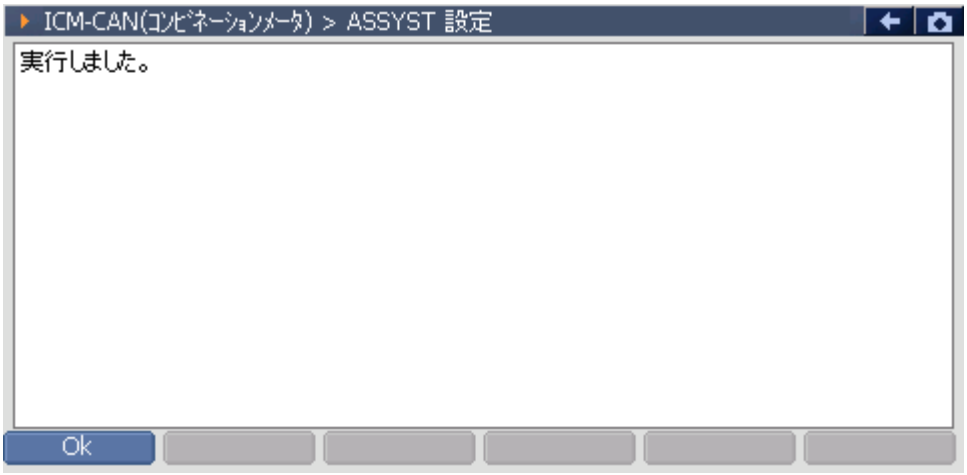
例）　A160（WDB168.033）の場合

オイル品質	次回交換までの残り走行距離
MB　シート　229.1、MB　シート　229.3	15.000Km
MB　シート　229.5	20.000Km

・　シートとはメルセデス･ベンツが発行している『燃料油脂承認済みオイルリスト』のシート番号のことです。各シートにはメルセデス･ベンツにより承認された各オイルメーカーのオイルの製品名が記載されています。

品質の高いほうからシート229.5→229.3→229.1の順になっています。

2）サービスリセットが正常に終了すると、『実行しました。』と表示されます。
CLASS指定が間違っていたり、または、サービスリセットが実行できない車両の場合には『実行できませんでした。』と表示されます。



〈図：サービスリセット終了メッセージ〉

SBC(センソトロニックブレーキコントロール)設定機能

診断機能

警告

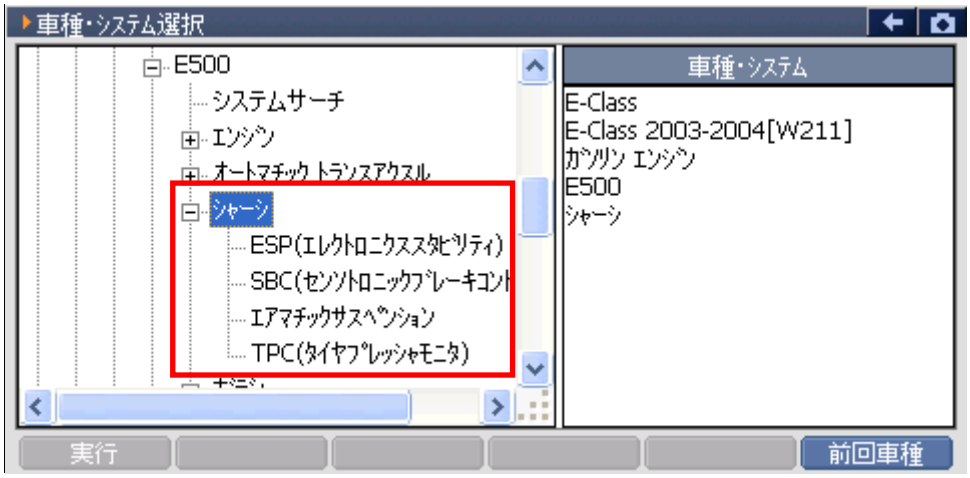
- スタンバイ状態のSBCブレーキシステムは、自動的に短時間高圧を発生することがあるのでメインテナンス/リペア作業の前に必ずシステムの作動を停止する必要があります。
- ブレーキピストンが自動的に作動することにより、身体の一部が挟まれたり、押しつぶされたりして重傷を負う危険があります。
- ブレーキ圧が自動的に上昇するため、高圧下で漏れ出したブレーキ液によって、重傷を負う危険があります。

SBC(センソトロニックブレーキコントロール)設定では、SBCブレーキシステムの作動停止/作動開始を設定することが出来ます。

※SBCブレーキシステム搭載車両において、以下の作業を行なう前には必ずSBCブレーキシステムの作動を停止してください。

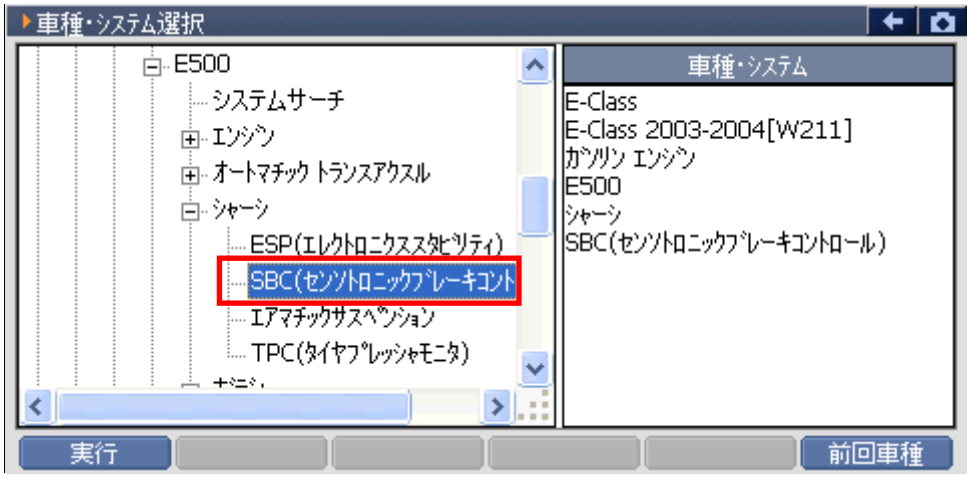
1) ハイドロリックシステムでの作業時。
2) ブレーキパッドを取り外し、または取り付け時。
3) ブレーキキャリパーを交換時。
4) ブレーキディスクを交換時。
5) ブレーキシステムのプレッシャリザーバ取り替え時。
6) ブレーキオペレーションユニットの部品交換時。
7) ハイドロリックユニットの部品交換時。

1）車種・システム選択画面にて『シャーシ』を選択して ENTER ボタンを押してください。システムの詳細が表示されます。



〈図：車種・システム選択画面にてシャーシを選択〉

2）『SBC(センソトロニックブレーキコントロール)』を選択して ENTER ボタンを押してください。通信が開始され診断メニューが表示されます。



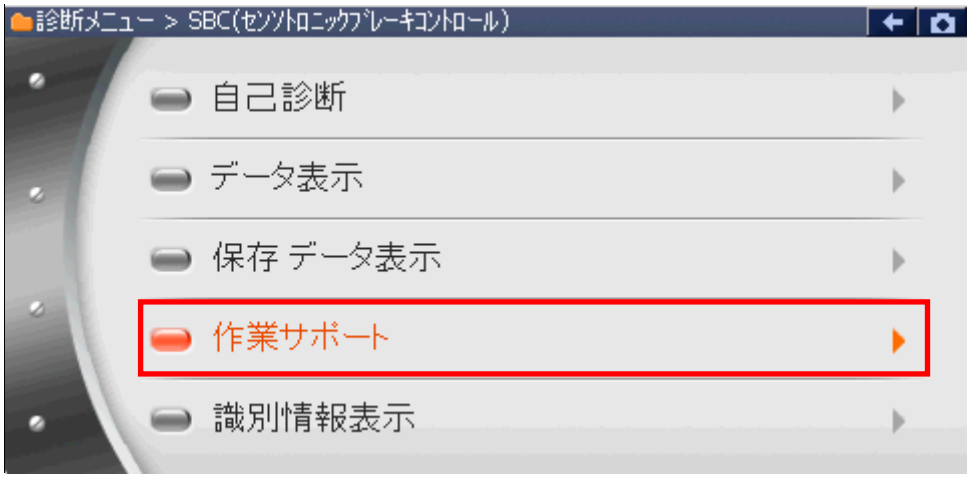
〈図：SBC(センソトロニックブレーキコントロール)選択画面〉

3）『SBC(ｾﾝｿﾄﾛﾆｯｸﾌﾞﾚｰｷｺﾝﾄﾛｰﾙ)』との通信が開始されると、インストルメントクラスタ内に警告メッセージが表示されたり、メーター類が動きだす事がありますが、故障ではありません。

SBC(センソトロニックブレーキコントロール)設定を正常に終了すれば、終了後に警告メッセージが表示されることはありません。

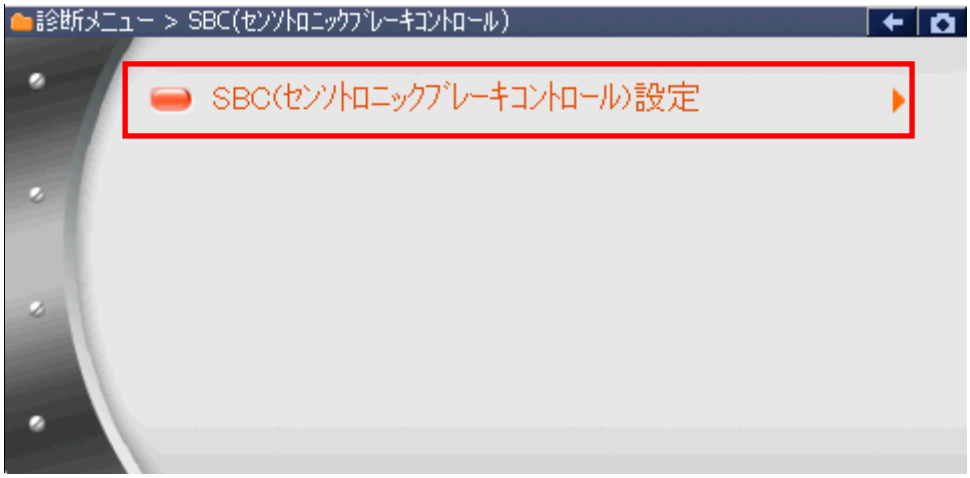
〈図：通信中に表示される警告メッセージ例〉

4）診断メニューにおいて『作業サポート』を選択して ENTER ボタンを押してください。

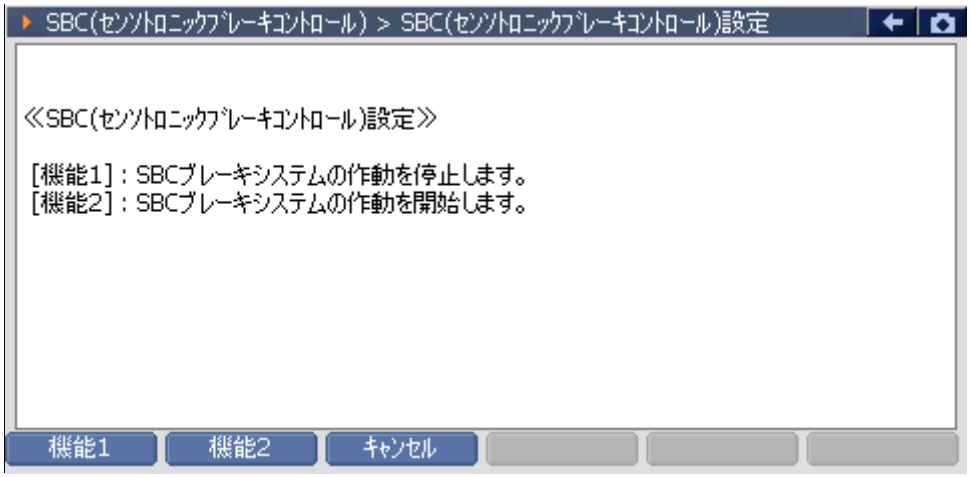


〈図：診断メニューにて作業サポートを選択〉

5）診断メニューから『SBC(ｾﾝｿﾄﾛﾆｯｸﾌﾞﾚｰｷｺﾝﾄﾛｰﾙ)設定』を選択して ENTER ボタンを押してください。SBC作動設定画面が表示されます。



〈図：診断メニューにてSBC(ｾﾝｿﾄﾛﾆｯｸﾌﾞﾚｰｷｺﾝﾄﾛｰﾙ)設定を選択〉



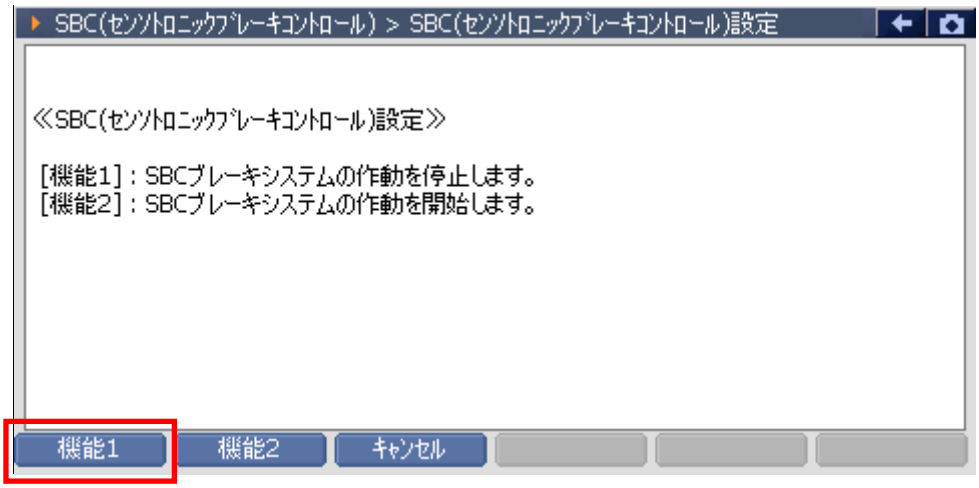
〈図：SBC作動設定画面〉

機能1　SBCブレーキシステムの作動を停止します。

機能2　SBCブレーキシステムの作動を開始します。

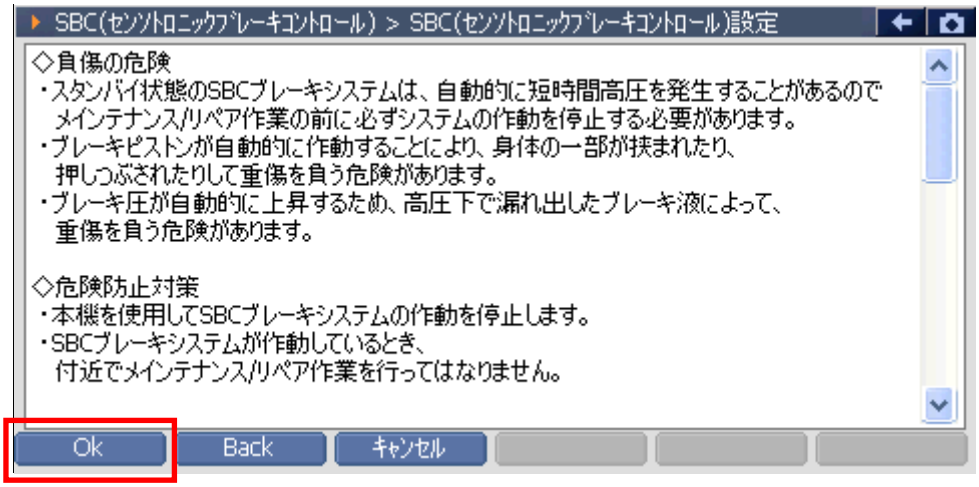
ｷｬﾝｾﾙ　5)の診断メニューに戻ります。

6）SBCブレーキシステムの作動を停止しますので、機能1 ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。警告メッセージ画面が表示されます。



〈図：SBC作動設定画面〉

7）警告メッセージ画面に移りましたら、記載内容を最後までご確認いただき、よろしければ、Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。確認メッセージ画面が表示されます。



〈図：警告メッセージ画面〉

Back　6）のSBC作動設定画面に戻ります。

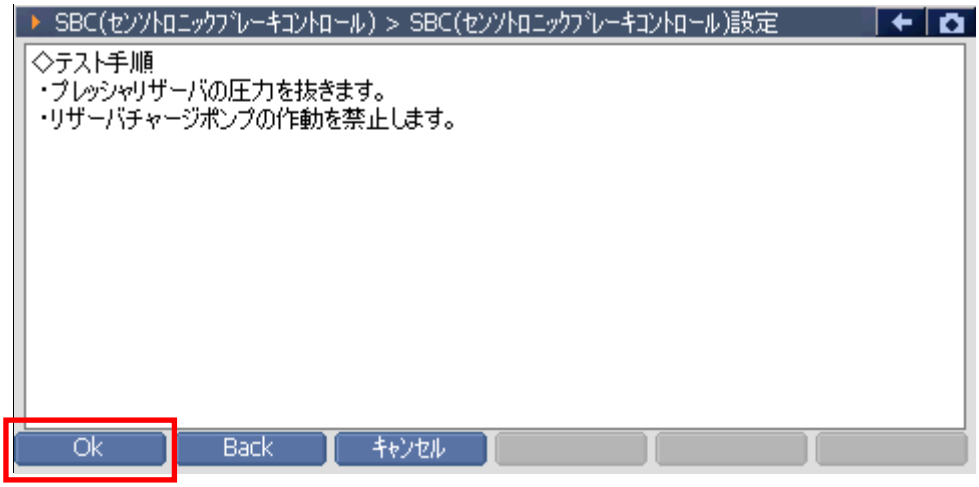
警告

● **警告/確認メッセージは必ず最後までご確認ください。**

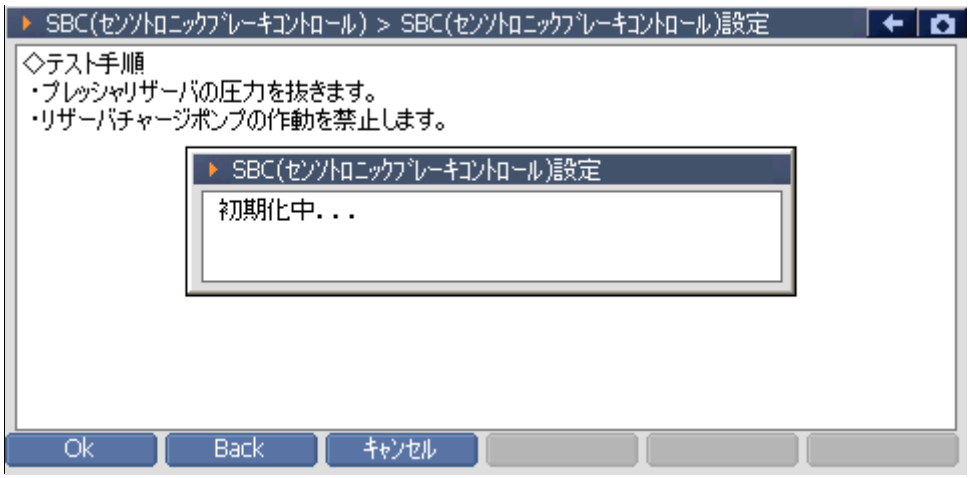
8）確認メッセージ画面に移りましたら、記載内容をご確認いただき、よろしければ、

Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

SBCブレーキシステムの作動を停止するための一連の動作が実行されます。



〈図：警告メッセージ画面〉



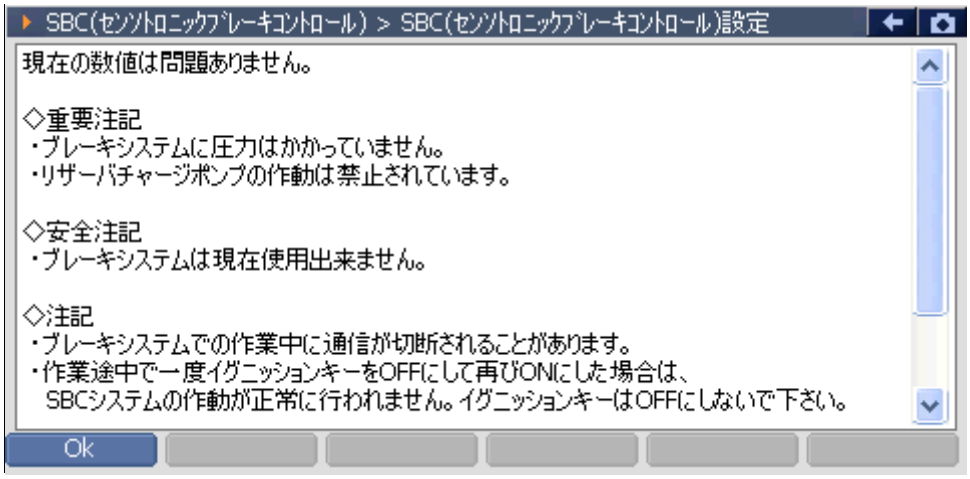
〈図：作動停止実行中〉

9）一連の動作が完了しますと、作動停止完了メッセージが表示されます。必ず記載内容を最後までご確認ください。

SBCブレーキシステムの作動は停止されていますので、この段階で、該当作業を行なってください。（作業中もイグニッションキーはOFFにしないでください。）

※注意と補足※

- ブレーキシステムでの作業中に通信が切断されることがあります。
- 作業途中で一度イグニッションキーをOFFにして再びONにした場合は、SBCシステムの作動が正常に行われません。イグニッションキーはOFFにしないでください。
- 警告メッセージがインストルメントクラスタに表示されています。
  （実際の故障が原因の警告メッセージではありません。SBCブレーキシステムとの通信中に表示されてしまうものです。）



〈図：作動停止完了メッセージ画面〉

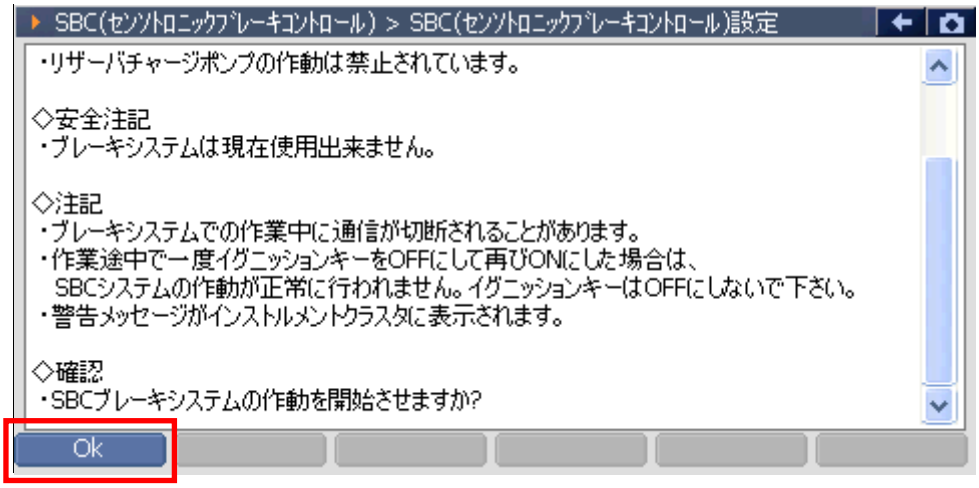
警告

● **作動停止完了メッセージは必ず最後までご確認ください。**

10） 該当作業が終わりましたら、SBCブレーキシステムの作動を開始しますので、

Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

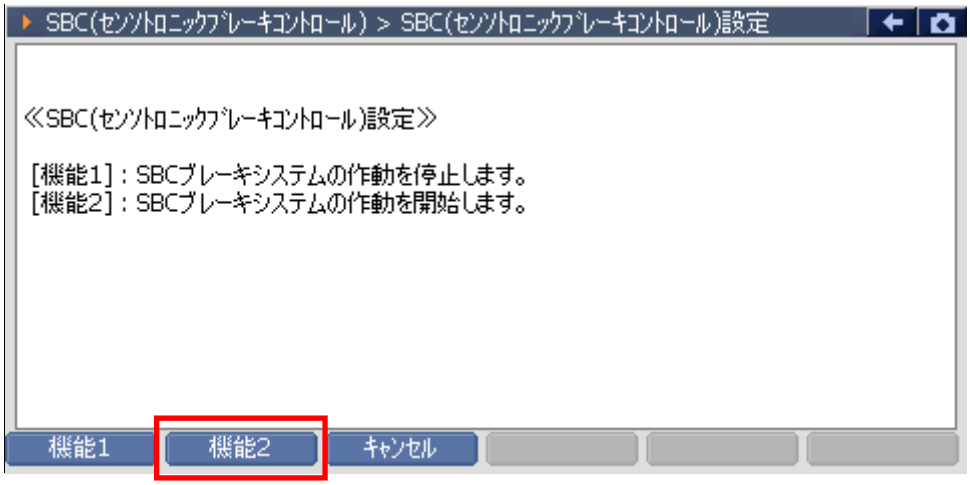
SBC作動設定画面に移ります。



〈図：作動停止完了メッセージ画面〉

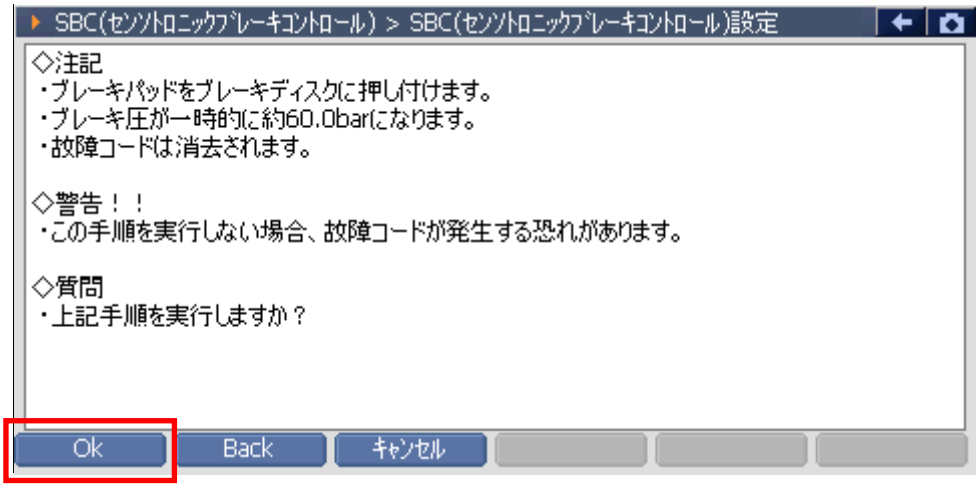
11） SBCブレーキシステムの作動を開始しますので、機能2 ボタンをタッチ、

又は F2 ボタンを押してください。警告メッセージ画面が表示されます。



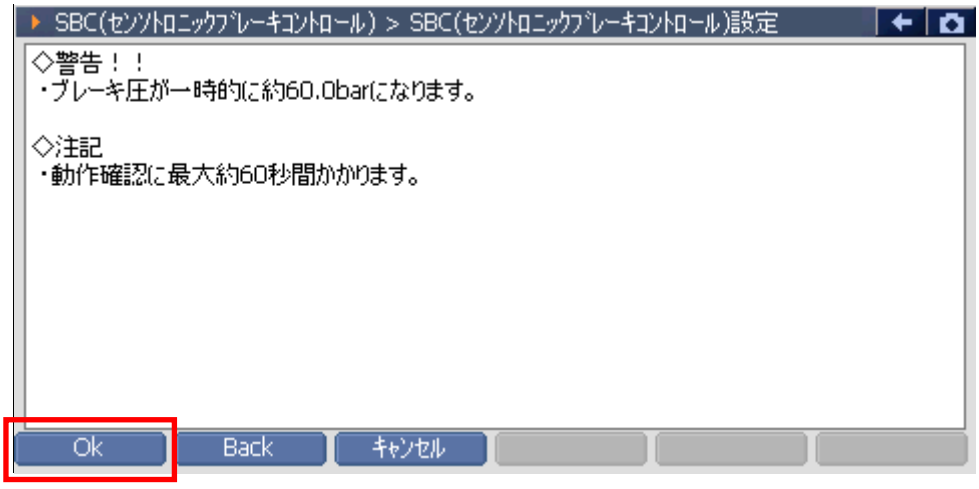
〈図：SBC作動設定画面〉

12） 警告メッセージ画面に移りましたら、記載内容をご確認いただき、よろしければ、Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。
SBCブレーキシステムの作動を開始するための一連の動作を実行します。



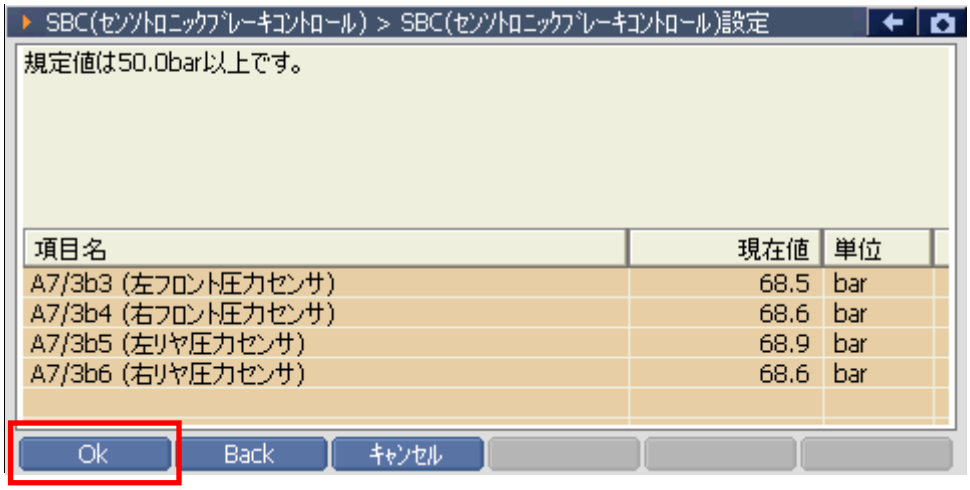
〈図：警告メッセージ画面〉

13） 動作途中で経過確認メッセージ画面が表示されますので、記載内容をご確認いただき、よろしければ、Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。



〈図：経過確認メッセージ画面〉

14） 一連の動作が完了しますと、現在値確認画面が表示されます。
各項目の現在値が規定値以上になっていることを確認して、Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

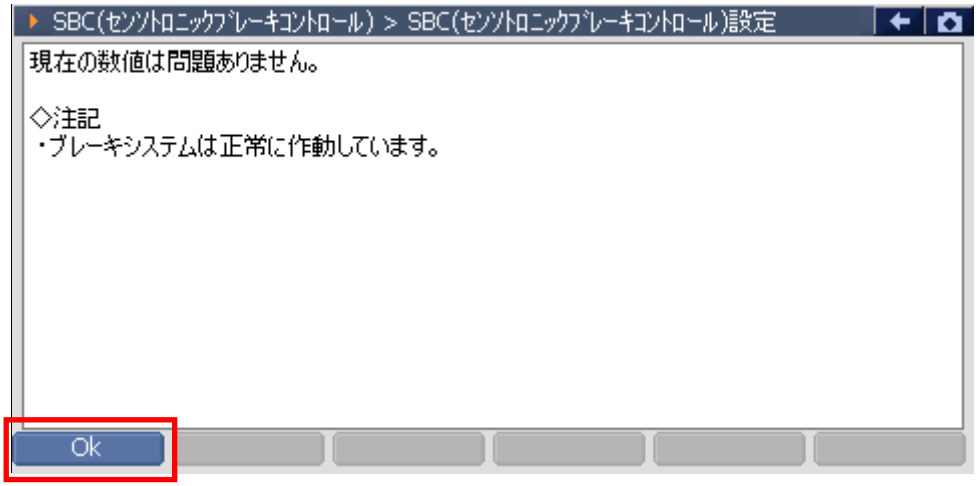


〈図：現在値確認画面〉

※注意と補足※

- 現在値が規定値に満たない項目がある場合は、Back ボタンをタッチして、11）のSBC作動設定画面に戻り、再度SBCブレーキシステムの作動開始を実行してください。

15） SBCブレーキシステム作動開始画面が表示されます。正常にSBCブレーキシステムが作動しています。



〈図：作動開始完了メッセージ画面〉

作業サポート機能

診断機能

警告

- 作業サポートはホンダのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。
- 使用方法を間違えると車両に悪影響をおよぼし、事故発生の原因となる恐れがあります。
- 作業サポートは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）で実行してください。

対応している作業サポート項目の一覧は以下の通りです。

<<エンジン>>

作業サポート項目名	内容
DPF学習	ｺﾝﾄﾛｰﾙﾓｼﾞｭｰﾙを交換後、必ず実施します。
DPF学習(新品時)	DPFを交換した後に初期化、学習が必要になります。
DPF再生	DPF再生を実施します。
インジェクタクラス設定	インジェクタクラスの設定を実施します。
インジェクタ登録	インジェクタを交換し後に実施します。
インジェクタ噴射量調整	インジェクタのIDコードを登録します。
エアインテーク ターボチャージャ初期化	ターボチャージャに関連するセンサ、システムを 交換した後に実施します。
エアフィルタ初期化	エアフィルタを交換した後に実施します。
コモンレール初期化	コモンレールを交換した後に実施します。

〈〈エンジン　続き〉〉

作業サポート項目名	内容
スロットルバルブ アクチュエータ初期化	スロットルバルブを交換した後に実施します。
ホットフィルム式 エアマスセンサ初期化	ホットフィルム式エアマスセンサを 交換した後に実施します。

〈〈オートマチック トランスアクスル〉〉

作業サポート項目名	内容
EGS･EAGリセット	EGS･EAGの学習値を初期化します。
設定値クリア	ATに関する学習値を消去します。

〈〈シャーシ〉〉

作業サポート項目名	内容
SBC(センソトロニック ブレーキコントロール)設定	SBCの設定・解除を実施します。
サスペンション 交互差動周期	サスペンションに関する作動を確認します。
ステアリングアングル センサ校正	ステアリングアングルセンサ校正を実施します。
プランジャストローク センサ校正	プランジャストロークセンサ校正を実施します。
リークテスト	サスペンションに関する作動を確認します。
レベル校正	レベルセンサの作動を確認します。

〈〈シャーシ　続き〉〉

作業サポート項目名	内容
空気圧テスト	サスペンションに関する作動を確認します。
積載調整	車両の積載を調整します。
特殊なエア抜き	通常のエア抜きを実施しても エアが残っている場合のみ実施します。

〈〈ボディ〉〉

作業サポート項目名	内容
MRM コントロールユニット交換	MRMコントロールユニットを交換する時に実施します。
OBF コントロールユニット交換	同じMB番号のコントロールモジュールの交換時に実施します。
TSG コントロールユニット交換	TSGを交換した後に実施します。
アラームサイレン: リセットコーディング	コーディングを実施するコントロールユニット に交換した後に実施します。
コントロールユニットの リセット	コントロールユニットのリセットを実施します。
コントロールユニット交換	コントロールユニットを交換する際に実施します。
チルト･クローズ 機能コーディング	チルト・クローズ機能の作動を確認します。
トランスミッターリセット	トランスミッターキーのリセットを実施します。
限界位置調整	挟み込み防止機能の調整を実施します。

〈〈シート・ドア〉〉

作業サポート項目名	内容
正規化	DCMまたはパワーウインドウモータを交換した時に実施します。
非正規化	DCMまたはパワーウインドウモータを交換した時に実施します。

〈〈インフォメーション・コミュニケーション〉〉

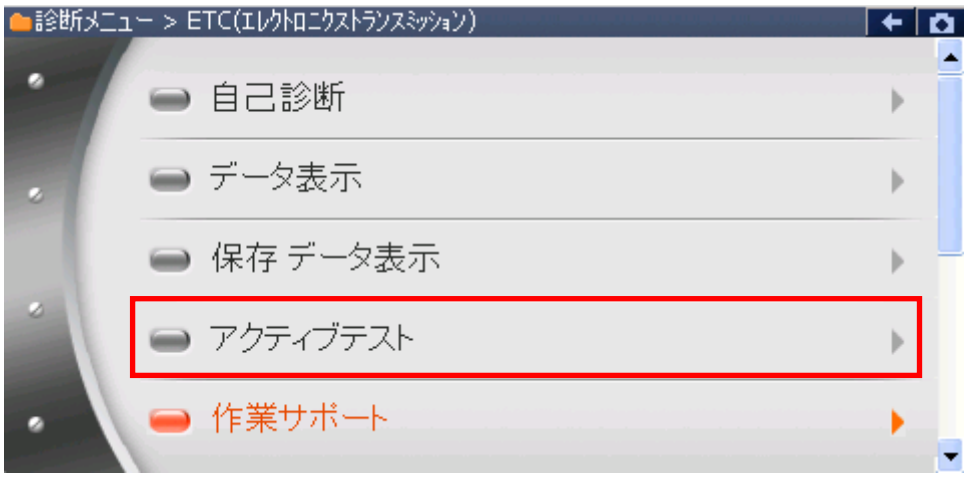
作業サポート項目名	内容
アシスト設定	車両のメインテナンス機能に関する 情報を修正する時に実施します。
オイル交換	オイル交換を実施する際に実施します。
オイル交換のリセット	オイル交換を実施する際に実施します。
サービスリセット	車両のメインテナンス機能に関する 情報を修正する時に実施します。

〈〈エアコン〉〉

作業サポート項目名	内容
MAXCOOL	エアコンの作動を確認します。
アクチュエータモータ学習	アクチュエータモータの学習を実施します。
コントロールモータ初期化	エアコンに関するユニットを交換した場合のみ実施します。
コントロールモジュール リセット	コントロールモジュールのリセットを実施します。
右ヒータ性能テスト	エアコンの右ヒータの作動を確認します。
機能テスト	エアコン機能の作動を確認します。
左ヒータ性能テスト	エアコンの左ヒータの作動を確認します。

ここでは、オートマチック トランスアクスルのETC(ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ)の作業サポート『EGS・EAGリセット』を例に説明します。

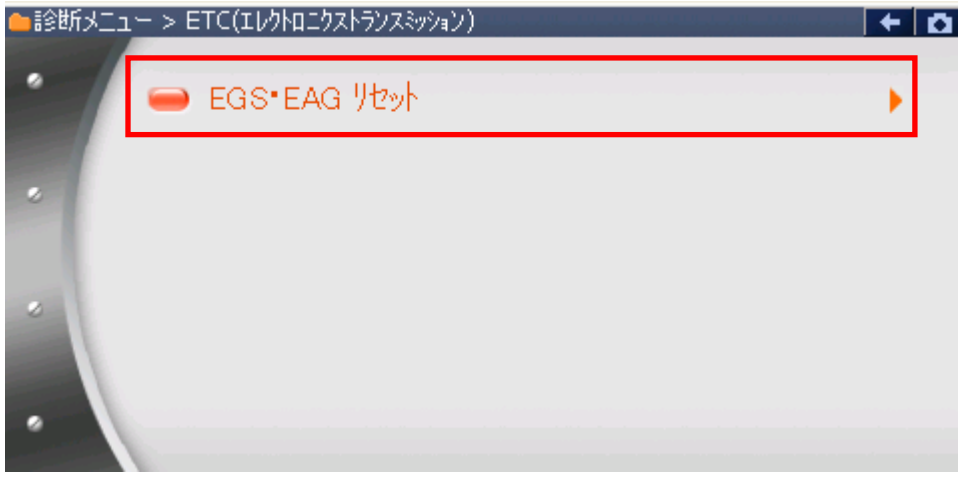
1）診断メニューにおいて『作業サポート』を選択して　　ボタンを押してください。



〈図：診断メニューにて作業サポートを選択〉

2）作業サポート項目選択画面が表示されます。

『EGS･EAGリセット』を選択して　　ボタンを押してください。



〈図：作業サポート項目選択画面〉

3）作業サポート実行画面が表示されます。画面の指示に従って作業サポートを実行してください。

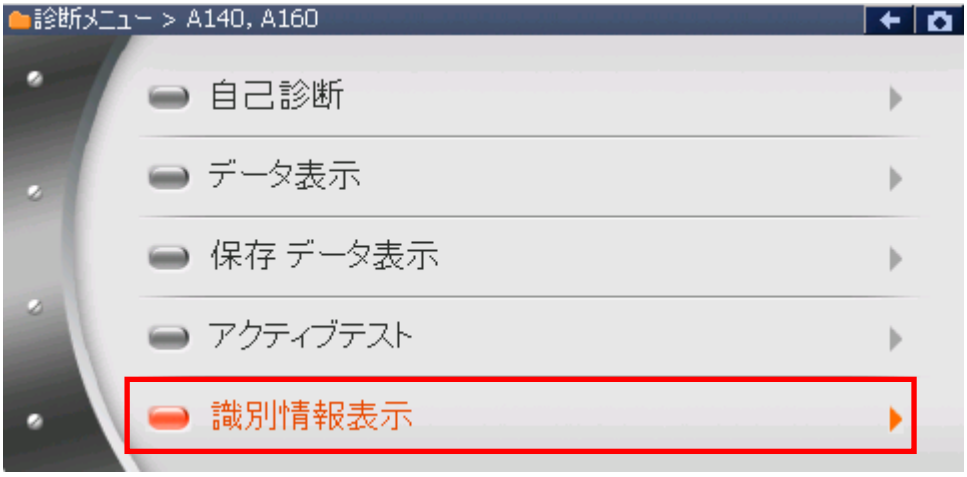
〈図：ECUリセット実行画面〉

※注意と補足※

- 作業サポートは車両によって対応する項目が異なります。

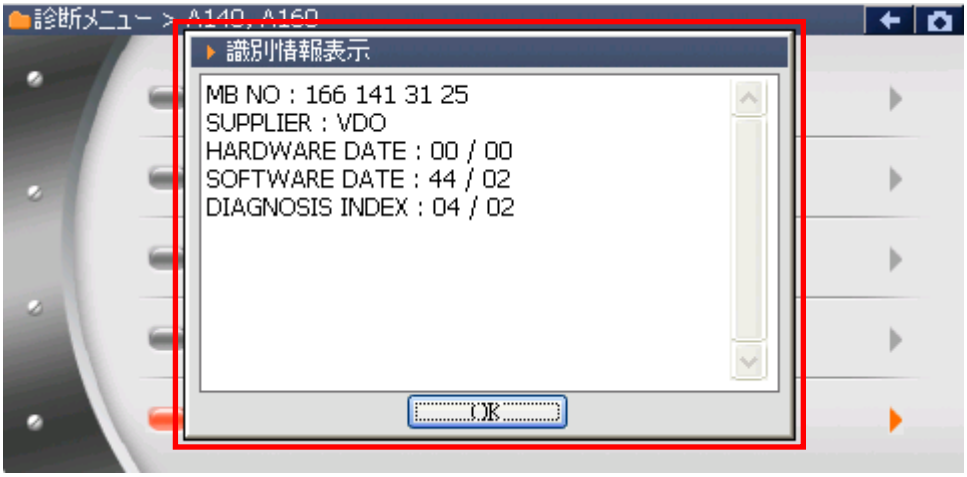
識別情報表示機能

1）診断メニューにおいて『識別情報表示』を選択して　　ボタンを押してください。



〈図：診断メニューにて識別情報表示を選択〉

2）識別情報が表示されます。



〈図：識別情報表示画面〉

株式会社 インターサポート

〒310-0836

茨城県水戸市元吉田町329-5

Tel 029-248-0616 Fax 029-248-1609

http://www.inter-support.co.jp

製品保守センター

（修理のお問合せはこちら）

Tel 029-304-0185

サポートセンター

（製品のご相談・ご質問はこちら）

Tel 0570-064-737 （ナビダイヤル※）

Fax 029-304-0167

※IP電話・PHSからはご利用出来ませんので、FAXでお問い合わせください。

2013年1月発行 第14版

本書を株式会社インターサポートの許可無く複写、複製、転載する事を禁じます。

本書に記載の製品、製品仕様、および使用方法は改良のために、将来予告なしに変更される場合があります。

G1PZFDN001-10-14